

JUKI

COMPUTER SEWING MACHINE

NEO THE MISIN

ネオザミシン
HZL-2100

取扱説明書



注意

安全にご使用していただくため、
ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、いつでも
ご覧になれますように保管してください。


お買い上げまことにありがとうございます。
 このコンピューターミシンの特徴をご理解していただき、
 正しく安全にご使用していただくために
 どうぞこの「取扱説明書」をよくご覧ください。




安全にご使用していただくために





このミシンを正しく安全にご使用していただくために、下記のことがらを必ずお守りください。

このミシンは日本国内向け、家庭用です。

FOR USE IN JAPAN ONLY

 この表示は
 禁止マークです。

 警告	このマークの表示は感電、火災の原因となりますから、特にご注意ください。
1. 一般家庭用交流電源100Vでご使用ください。 2. 下記のようなときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。 ● ミシンのそばを離れるとき。 ● ミシンをご使用になったあと。 ● ミシンのご使用中に停電したとき。	
 注意	このマークの表示は感電、火災、けがの原因となりますから、特にご注意ください。
1. コントローラーの上に物をのせないでください。 (コントローラーは別売品です) 2. お客様ご自身での分解、改造はしないでください。 3. ミシンを操作するときにはかま部などカバー類を閉じてください。 4. ミシンの縫製中は針から目を離さないようにし、針、はずみ車(プーリー)、天びんなど、すべての動いている部分に手を近づけないでください。 5. 針折れの原因になるような曲がった針はご使用にならないでください。	    

6. 針折れの原因になりますので、縫製中に布を無理に引張ったり、押ししたりしないでください。 7. お子様かミシンをご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全にご注意ください。 8. 下記のことを行うときは、電源スイッチを切ってください。 ● 針、針板、押え、アタッチメントなどを交換するとき。 ● 手動で下糸、上糸をセットするとき。 ● ランプを交換するとき。 (ランプが冷えてから行ってください) ● 取扱説明書に記載のあるミシンのお手入れを行うとき。	   
[模様選択時に、糸や針の交換のため電源を切りますと、すべてクリアされます。]	
9. 落下しやすい場所でのミシンのご使用、保管はしないでください。	
10. ミシンやコントローラーに下記の異常があるときは速やかに使用を停止し、最寄りの直営店にて点検、修理、調整をお受けください。 ● 正常に作動しないとき。 ● 落下などにより破損したとき。 ● 水に濡れたとき。 ● 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。 ● 異常な臭い、音がするとき。	

その他のご注意

直射日光が当たる場所、湿気が多い場所には置かないでください。



シンナーなどの溶剤でふかないでください。



- やわらかい布に中性洗剤を少量つけて、よくふきとってください。

このミシンはマイクロコンピューター、半導体電子部品や精密な電子回路を内蔵していますので、右記の状態がおこる場合があります。ご注意ください。

● 5℃～40℃の範囲でお使いください。



● 湿度がいちじるしく低い場合、正常に動かないことがあります。

● 長時間のゆっくりぬいを続けると異常発熱を防ぐため、ミシンが止まるようになっています。



● 約20分で安全装置が復帰して正常にご使用できます。

もくじ

安全にご使用していただくために1
 各部のなまえ3, 4
 付属品4

基本操作

電源の入れ方5
 操作ボタンのなまえとはたらき5
 操作キーのはたらき6
 画面の明るさ、濃度の調整6
 下糸巻き／ボビンのセット7, 8
 自動上糸かけ9
 模様の種類と選び方10
 布地を入れてぬってみよう11, 12
 自動糸切り、返しぬい（ほつれ止め）
 押えを交換するには13
 押えの種類と主な用途
 ぬい目の長さを調節（手動）するには14
 模様のおい目の長さの自動と調節できる範囲
 針位置／振り幅を変えるには15
 糸調子を調節（手動）するには16
 針の交換17
 布地に合った糸と針の選び方

実用ぬい

直線ぬい18, 19
 ぬい方向を変えるには
 ぬいしろの重なった部分のぬい方
 厚地のぬい始め
 自動止めぬい19
 筒ぬい（フリーアーム）20
 端ぬい20
 伸縮強化ぬい20
 ジグザグぬい21
 ジグザグ模様の振り幅／ぬい目の長さ
 裁ち目かがり（縁かがり）22
 しつけぬい23
 三点ジグザグ23
 ブラインドステッチ（まつりぬい）24

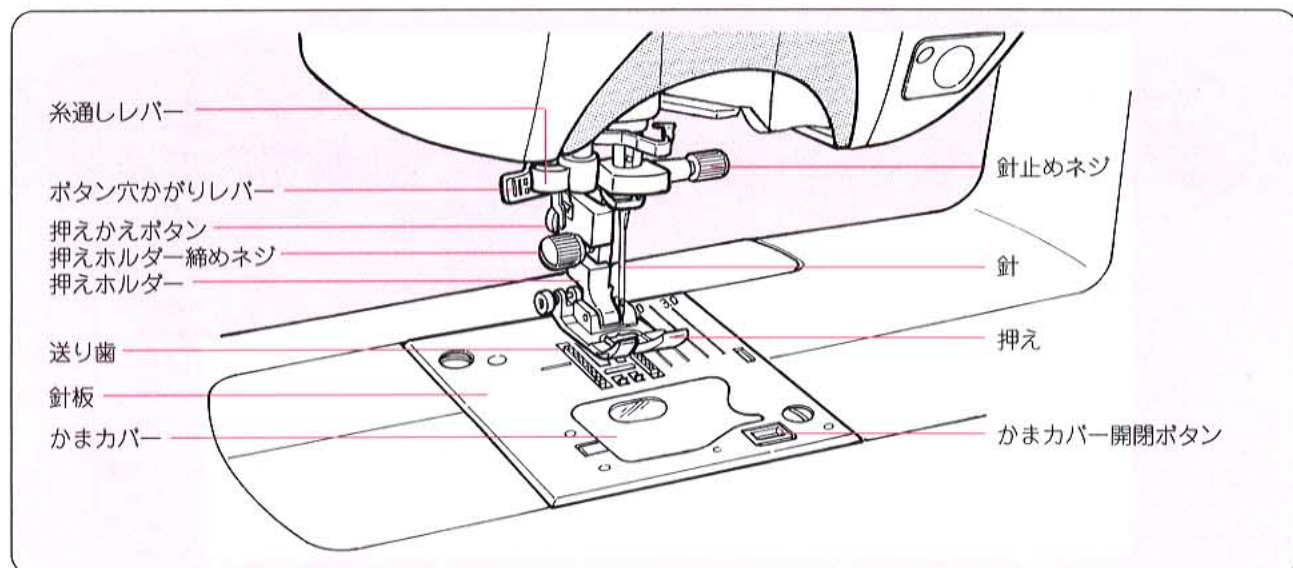
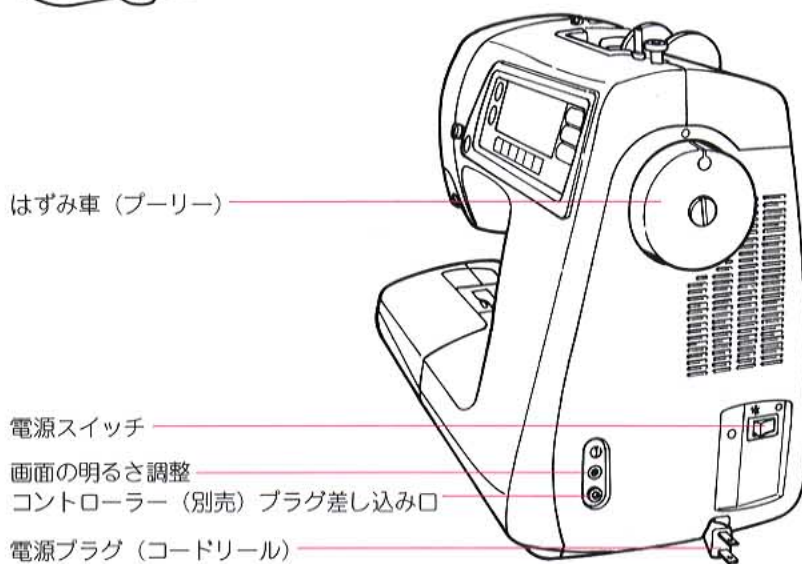
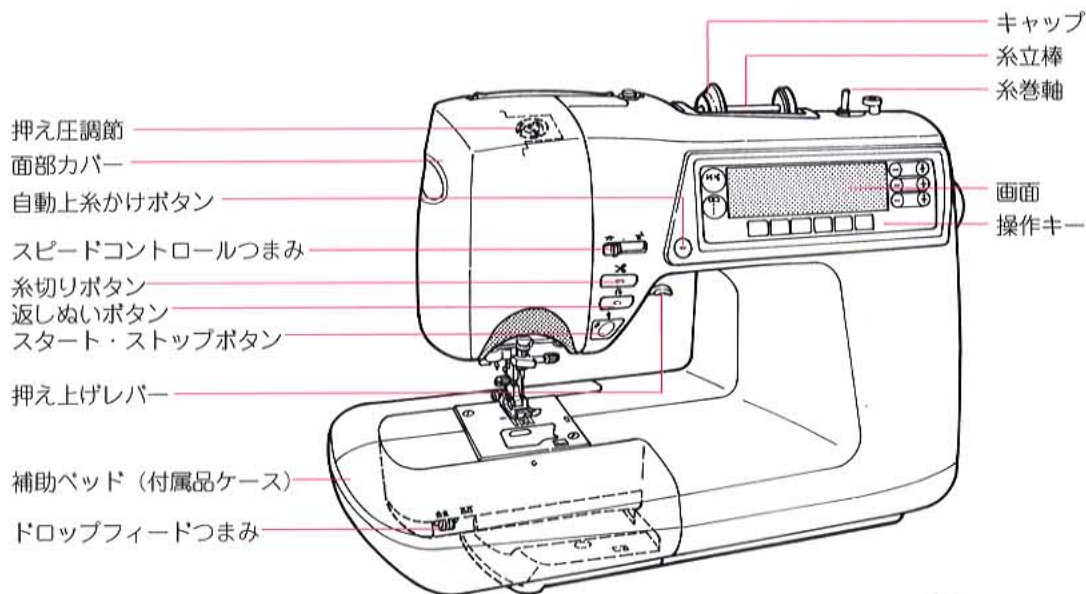
自動ボタン穴かがり25, 26, 27
 両かん止め／ハトメ穴かがり
 芯入りボタン穴かがり
 手動ボタン穴かがり27
 かん止め28
 ファスナーつけ29~32
 脇あきファスナーつけ／つき合わせのファスナーつけ
 小物づくりのファスナーつけ
 コンシールファスナーつけ
 いせ込み、ギャザーの寄せ方33
 ピンタック33
 伏せぬい34
 アププリケ34
 キルティング35
 横送り（四方ぬい）35
 パッチワーク36
 貝がらぬい（スカラップ）36

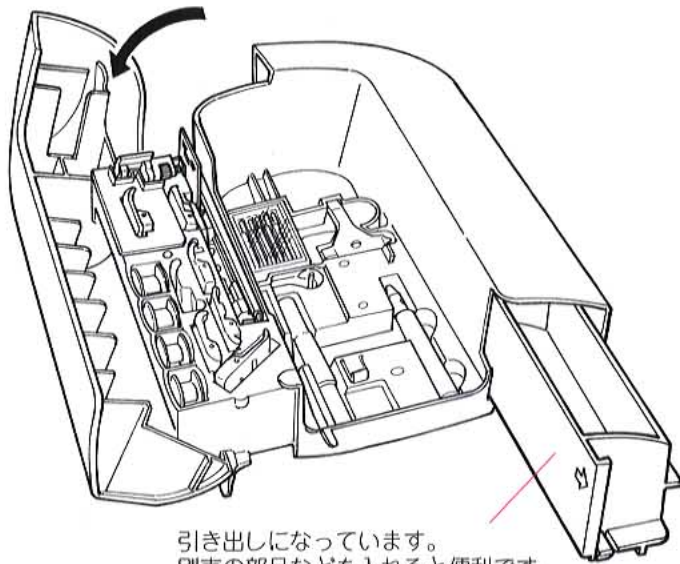
もようぬい

連続もよう37
 もようぬい38, 39
 ぬう前の準備、画面の模様の出し方、ためしぬい、
 画面表示のはたらき、操作キーのはたらき
 ぬうもようを選ぶには39
 渡り糸の始末
 文字ぬい40
 模様と文字を組み合わせるぬいには41
 しんせつメッセージ42
 別売品のご紹介43, 44
 三ツ巻き押え、ひもつけ押え
 上送りアタッチメント、コントローラー、固定板
 自動上糸かけ45, 46
 下糸の引きあげ方
 故障かな・・・というときは47, 48
 仕様表48
 ランプの交換49
 ミシンの手入れ49
 模様一覧表50
 アフターサービスと保証裏表紙



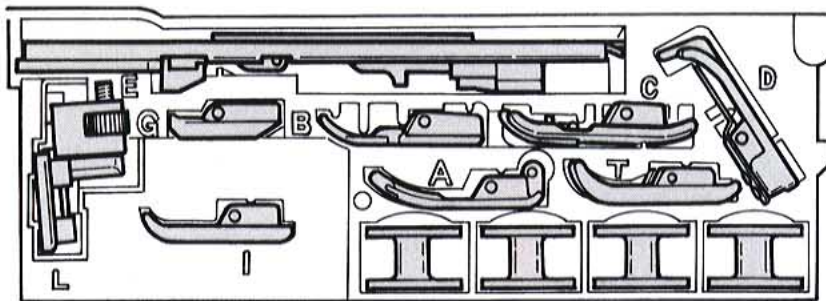
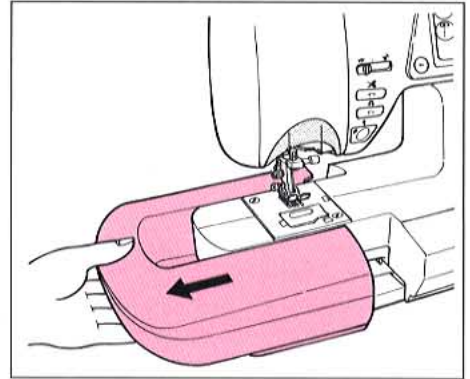
各部のなまえ





引き出しになっています。
別売の部品などを入れると便利です。

補助ベッドを左へ引き出します。

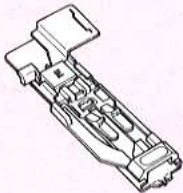


付属品

●補助ベッドの中に入っています。



基本押え (A)



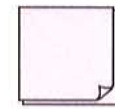
ボタン穴かがり押え (E)



裁ち目かがり押え (C)



ブラインドステッチ押え (D)



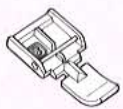
布



ハサミ



チャコペン



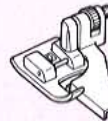
ファスナー押え (B)



模様押え (T)



コンシール押え (G)



ステッチガイド押え (L)



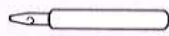
手動BH押え (I)



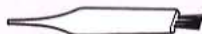
ポビン (4)



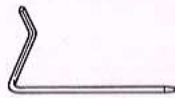
リッパー (糸ほどこ)



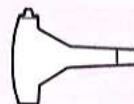
はと目パンチ



掃除用ブラシ



棒定規



専用ドライバー



針ケースと針

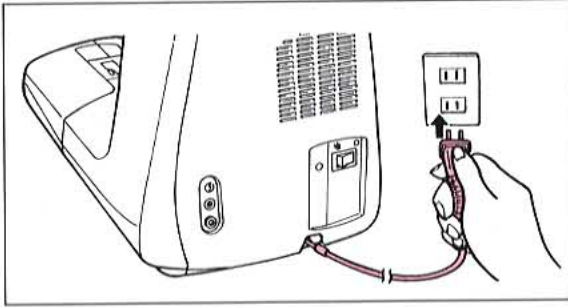
Hx1・・・11番・2本、14番・1本
Hx1SP (青色)・・・ニット針11番・2本

※付属品は補助ベッドの所定の位置にセットしてください。補助ベッドの出し入れができなくなることがあります。
※基本押え (A) は最初ミシン本体にとりつけられています。

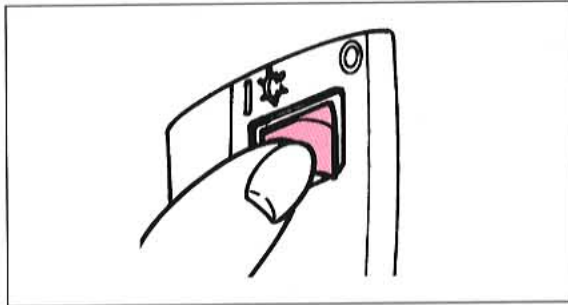
電源の入れ方/操作ボタンのなまえとはたらき

基本操作

電源の入れ方



- 1) コードリールの電源コードを引き出して、室内コンセントへ差し込みます。
▲このミシンは一般家庭用交流電源100Vをご使用ください。
▲電源コードの赤印以上は引き出さないでください。



- 2) 電源スイッチ (I側) を押すと電源が入り、ランプがつきます。
- 3) 電源を切るときは、電源スイッチ (O側) を押します。
※電源コードをしまうときは、少し (5センチ位) 引いて手を離すと自動的に巻き込みます。

操作ボタン

糸切りボタン

ボタンを押すと上糸、下糸が自動的に切れ、針は上位置で止まります。
※その後、下糸が針板上にみえなくても、続けてぬうことができます。

スタート・ストップボタン

ボタンを押すとスタートし、再度押すと針が下位置でストップします。
ボタンの色がミシンの準備の状態が変わります。
緑色：スタート可能と縫製中のとき
赤色：スタート不可能のとき
橙色：下糸巻きするとき

スピードコントロールつまみ
ぬい中でもスピード調節ができます。

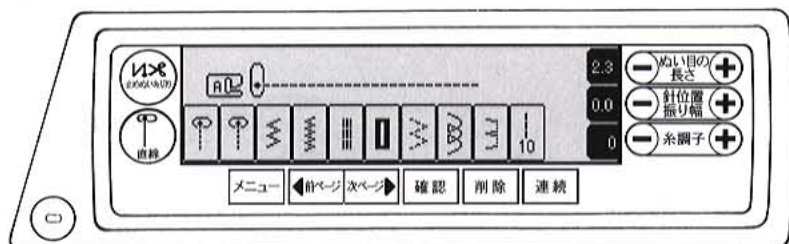
自動上糸かけボタン
上糸を自動でかけることができます。

押え上げレバー

返しぬいボタン
ボタンを押している間だけ返しぬい (止めぬい) を低速でぬいます。

操作キーのはたらき / 画面の調整

操作キー



※画面の上に表示される模様がぬえる模様です。



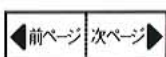
止めぬい/糸切りキー……自動的に、ぬい始めとぬい終りに止めぬいをし、上・下の糸切りができます。



直線ぬいキー……直線ぬいとその画面を表示したいときに押します。直線ぬいが選択されます。



メニューキー……実用以外のもようを選ぶときに押しますと、メニュー画面が表示されます。



前ページ/次ページキー……液晶画面で次の画面（次の画面がある場合のみ）を見たいときは次ページボタンを押します。前の画面に戻りたいときは前ページボタンを押します。



メモリ確認キー……複数の模様を選んだ場合（ワンポイント、文字など）確認することができます。



メモリ削除キー……選んだ模様を削除します。



連続ぬいキー……選んだ模様を繰り返してぬうことができます。



ぬい目の長さキー……ぬい目の長さを調節するときに押します。

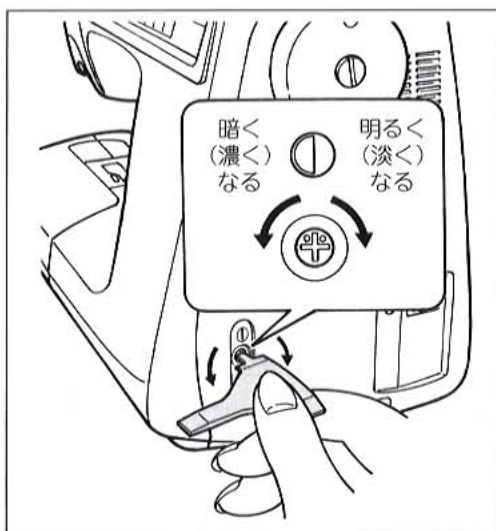


針位置/振り幅キー……針位置や振り幅を調節するときに押します。



糸調子キー……糸調子を調節するときに押します。

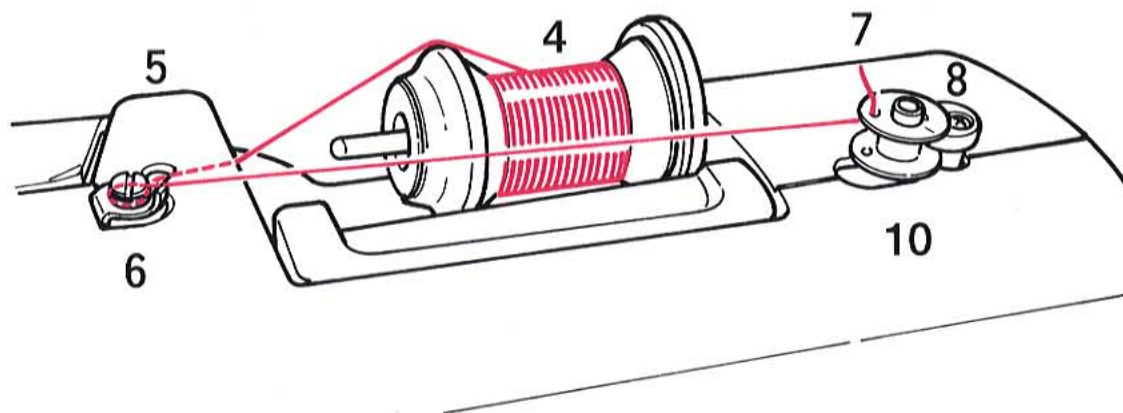
画面の明るさ、濃度の調整



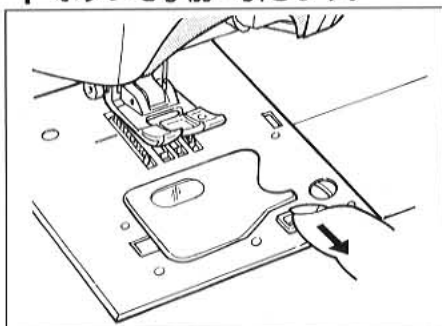
画面を見ながら、ミシン側面の調整穴で調整します。

1. 付属ドライバーの一番細いところを、穴の十字に合わせます。
2. 画面を明るく（淡く）したい場合は→右側へ回します。画面を暗く（濃く）したい場合は→左側へ回します。

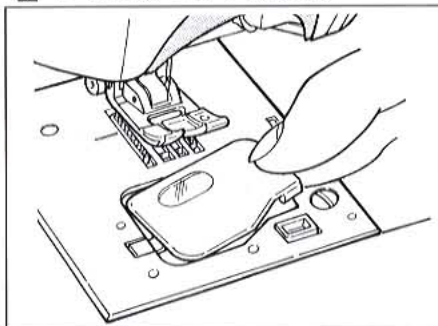
下糸巻き/ボビンのセット



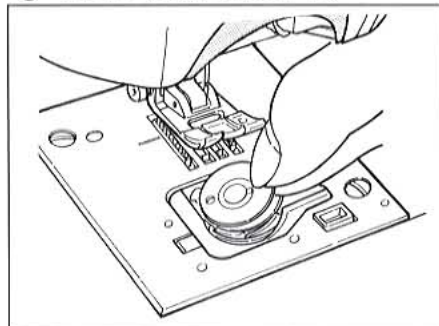
1 ボタンを手前へ引きます。



2 フタを取りはずします。

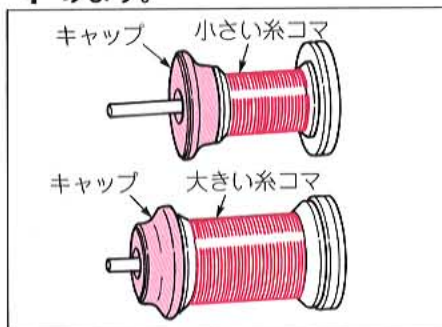


3 ボビンを取り出します。

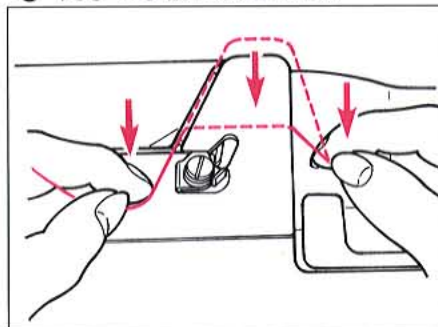


注意 ボビンを出し入れするときは電源スイッチを切ってください。

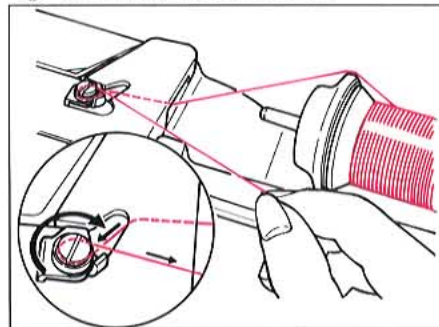
4 糸ゴマを入れキャップを差し込みます。



5 両手で手前に引きます。

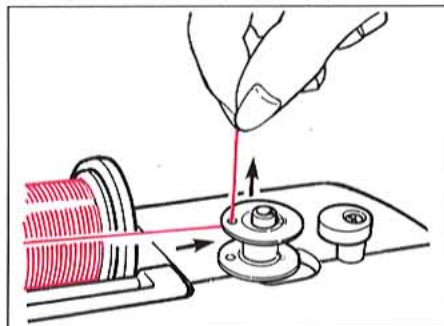


6 糸を糸案内にかけます。

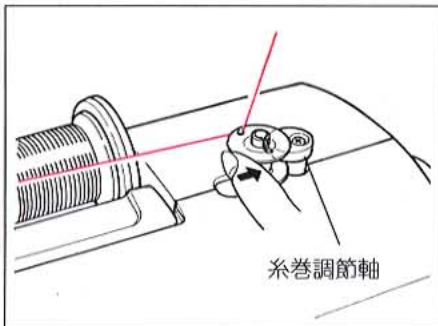


パチッという音を確認してください。

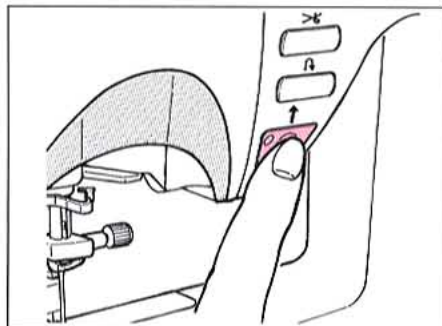
7 ボビンをセットします。



8 ボビンを糸巻き調節軸に押しつけます。

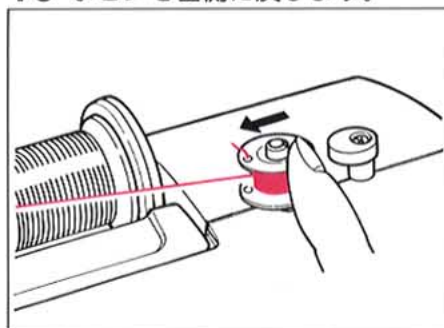


9 スタートさせます。



お好みの量に巻いたら、スタート・ストップボタンを押します。

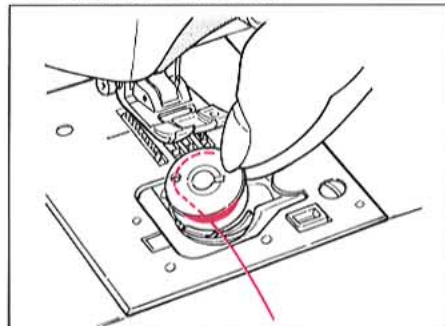
10 ボビンを左側に戻します。



余分な糸を切りボビンを取り出します。

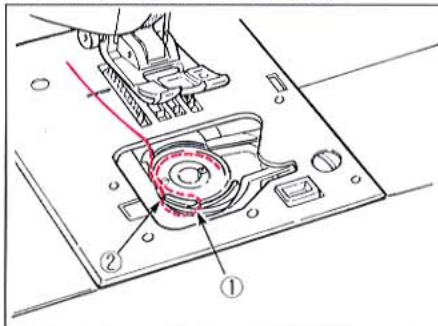
ボビン（下糸）のセット

1 内かまに入れます。



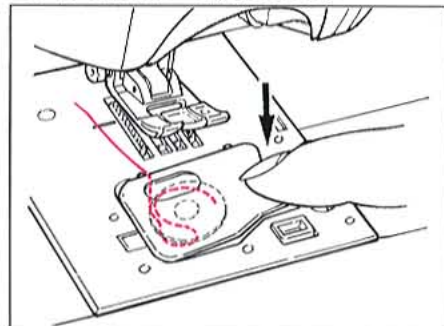
ボビンの糸の巻き方向を左巻きにします。

2 内かまに糸をかけます。



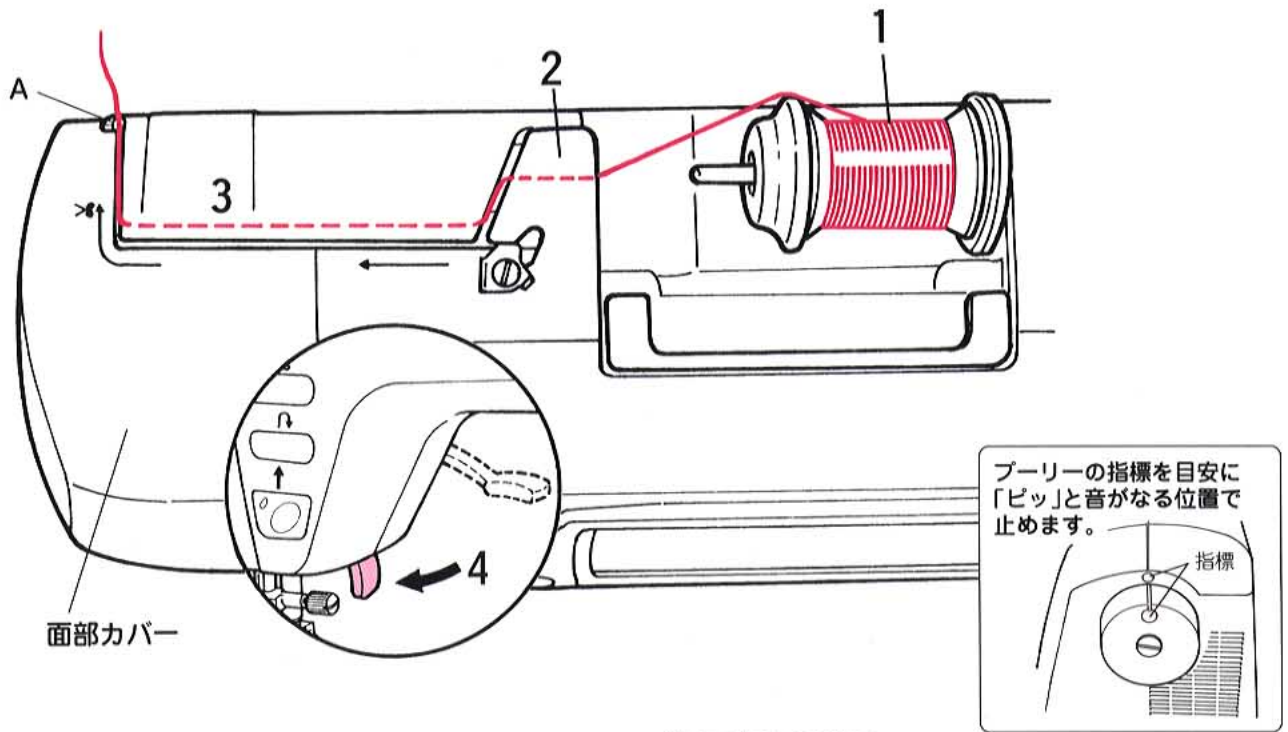
①に糸をかけ②のミソの上ののせて、後ろへもって行きます。

3 かまカバーを閉じます。

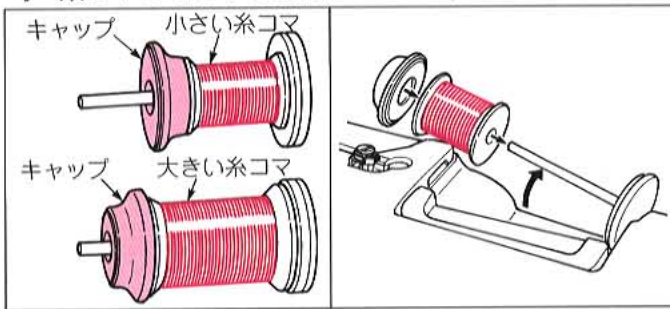


自動上糸かけ

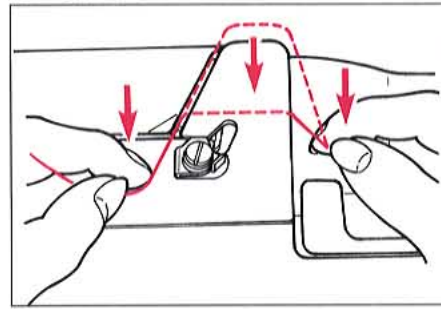
※面部カバーが閉じていることを確認します。
 ※糸かけ中は面部カバーを開けないでください。



1 糸ゴマをセットします。

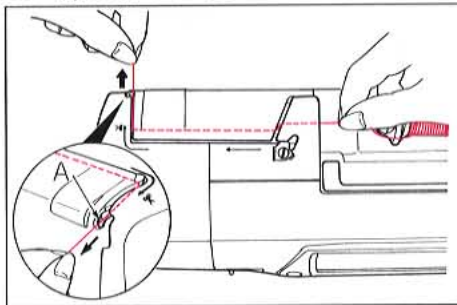


2 糸を両手で手前に引き込みます。

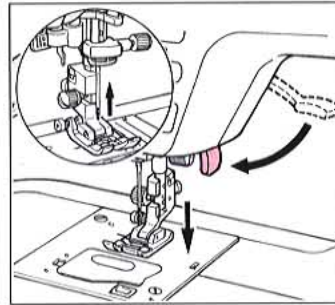


パチッという音を確認してください。

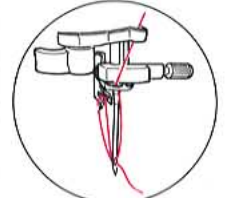
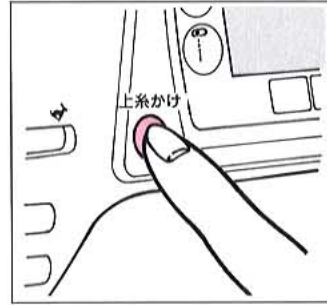
3 右手で糸を持ちながら、みぞにそって糸をかけ、矢印の後ろの方向へ引っ張り、「A」の糸切り刃で糸を切ります。



4 押え上げレバーをさげます。



5 自動上糸かけボタンを押します。



*糸がフックにかかったままの場合は、はずしてからご使用ください。

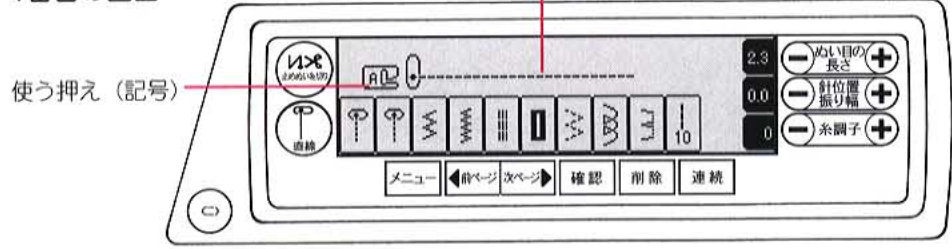
*プーリーの指標を合わせます。自動で糸かけが始まり、針に糸が通ります。

※自動上糸かけをするときは、11番～16番の針をお使いください。
 針の太さと糸の番手の組合せを17ページの「布地に合った糸と針の選び方」で確認してください。
 その他の針を使用するときは、手動で上糸をかけてください。
 ※特殊な糸を使ったときに、上糸かけができない場合があります。
 その場合は手動で上糸をかけてください。
 (手動の上糸かけは45,46ページをご覧ください)

模様の種類と選び方

- * 実用ぬい模様は3画面（30種類）あります。
 - * 電源をいれると、縫製に多く使う左基線の直線ぬいが、自動的に選ばれ表示されます。
 - * お好みの模様を選ぶときは、そのボタンに軽く触れてください。
- 画面の上の方に選んだ模様と使う押え（記号）が表示されます。

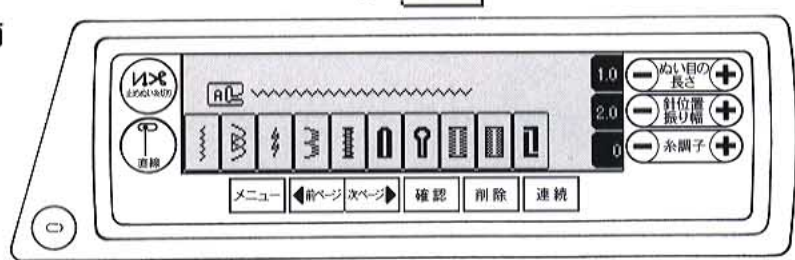
1番目の画面



※糸調子、針位置/振り幅、ぬい目の長さを変更したいときは、14,15,16ページをご覧ください。

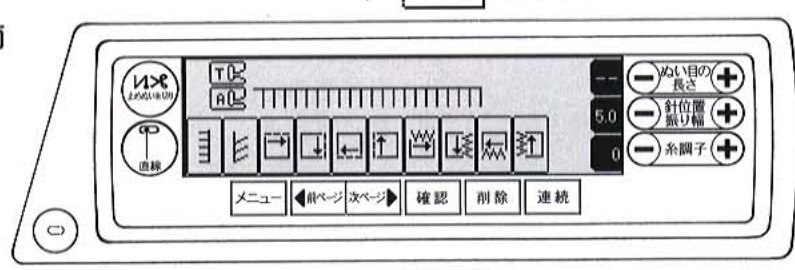
↓ 次ページ → を押すと

2番目の画面



↓ 次ページ → を押すと

3番目の画面



↓ 次ページ → を押すと、1番目の画面に戻ります

●実用模様の主な用途

左基線	中基線	大	中	伸縮強化ぬい	ボタン穴かがり	裁ち目がかり	三点シグザグ	裁ち目がかり	まつりぬい
直線ぬい	直線ぬい	シグザグぬい	裁ち目がかり	伸縮強化ぬい	ボタン穴かがり	裁ち目がかり	三点シグザグ	裁ち目がかり	まつりぬい
参考ページ 18		21		20	25	23	22	24	23

小	伸縮直線ぬい	伸縮まつりぬい	かん止め	ねむり	ハト目	伸縮	伸縮	伸縮	手動式
シグザグぬい	伸縮直線ぬい	伸縮まつりぬい	かん止め	ねむり	ハト目	伸縮	伸縮	伸縮	手動式
21	22	18	24	28	25	25	25	25	27

できあがったズボンや袖の筒ぬいに使うと便利です。

四方ぬい

アップリケ	ニットステッチ	伸縮裁ち目がかり	直線ぬい	直線ぬい	直線ぬい	直線ぬい	直線ぬい	直線ぬい	直線ぬい
34	22								

ワッペンつけ 35

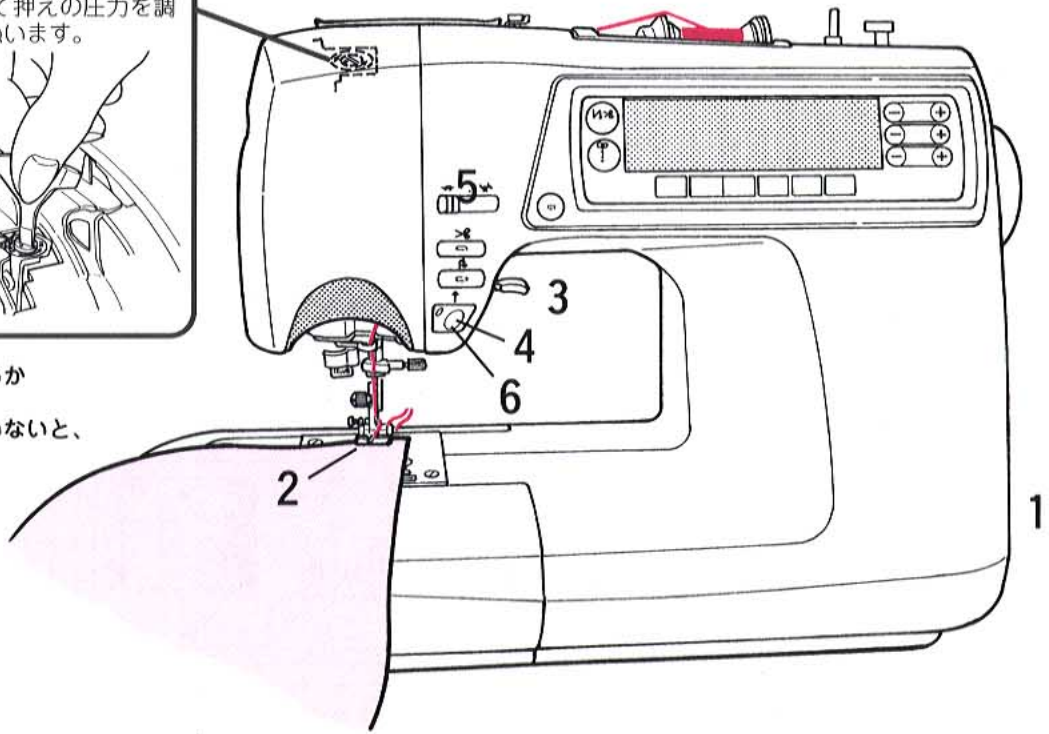
- ※ は横送り直線です。
- ※ は横送りシグザグです。

布地を入れてぬってみよう

基本操作

押え圧調節
 布地の種類や厚さによって押えの圧力を調節します。通常は「強」でぬいます。

※上糸が正しくかかっているか確認してください。
 (上糸が正しくかかっていないと、ミシンが動きません)



1 電源を入れます。

実用ぬいの直線ぬい（左基線）が選ばれます。

2 押えを確かめます。

基本押え (A)

布地を入れ、上・下糸をそろえて後ろに出し、
3 押えをさげます。

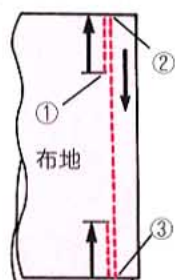
4 スタートさせます。

5 スピードを調節します。

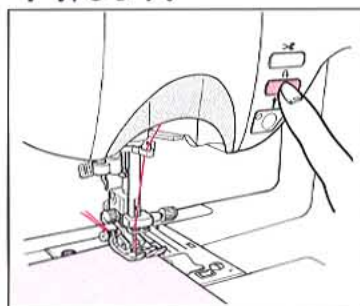
6 ストップさせます。

返しぬい（ほつれ止め）

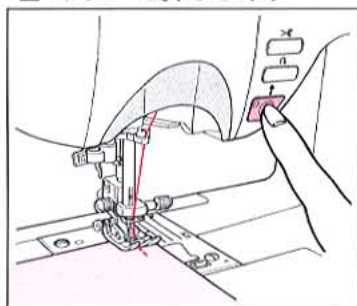
ぬい始めと、ぬい終りに返しぬいをするとぬい目がほつれません。



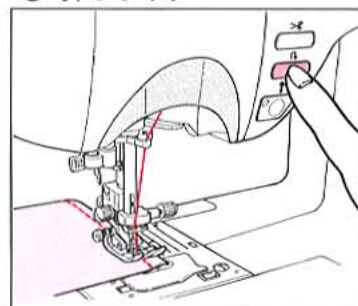
1 返しぬいボタンを押します。



2 スタート・ストップボタンを押します。



3 返しぬいボタンを押します。

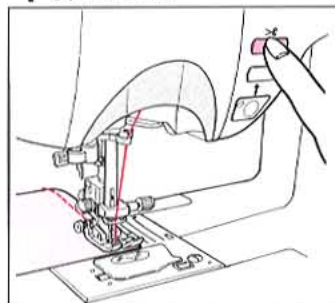


*返しぬいボタンは押している間だけ返しぬいができます。
*返しぬいは、ゆっくりな速度になっています。
*ジグザグなどの模様ぬいのはきは、止めぬいになります。

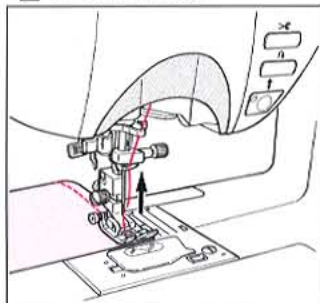
自動糸切り

ぬい終わったら・・・

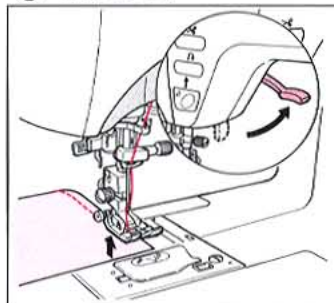
1 糸切りボタンを押します。



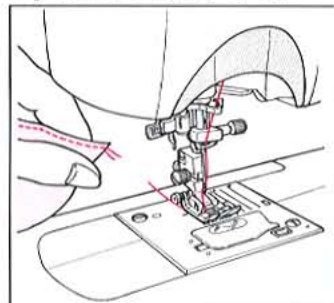
2 針が動いて上で止まります。



3 押え上げレバーをあげます。



4 上・下糸が切られて、あとは布地を取り出すだけです。



*30番以下の太い糸や特殊な糸はハサミを使って切って下さい。
*自動糸切りしたあと、下糸が見えなくてもそのまま次にぬえます。

自動止めぬいについて



キーを押してからスタートさせると、ぬい始めに3針の返しぬい（止めぬい）をしてから、ぬい進みます。所定の位置までできましたら、返しぬいボタンを押します。3針の返しぬい（止めぬい）をして、さらに糸切りをして止まります。（19ページ参照）

押えを交換するには・・・

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

基本操作

1 押え上げレバーをあげます。

2 ボタンを押します。(押えがはずれます。)

3 交換する押えのピンと刻線を合わせます。

4 押え上げレバーをさげると押えはセットできます。

針は上へ
ピン
刻線

押えは補助ベッドの中に入っています。

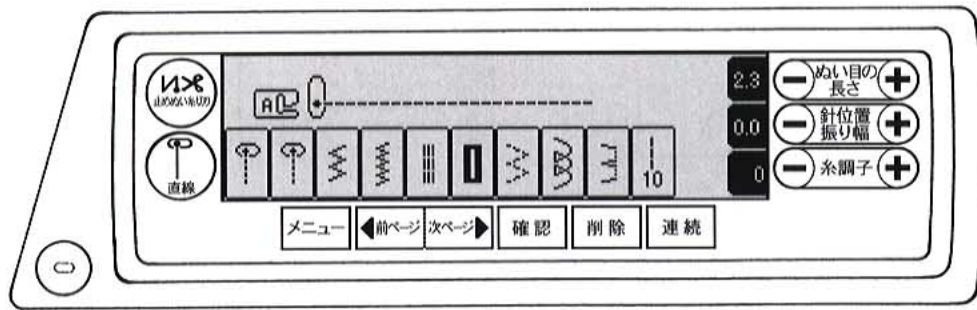
押えの種類と主な用途

模様とあった「押え」を使いましょう！

押え	記号	模様	主な用途
<p>基本押え</p>	A	<p>ピンタック キルティング 直線ぬい</p>	<p>伸縮強化ぬい</p> <p>キルティング アップリケ ジグザグぬい</p> <p>裁ち目かがり 三点ジグザグぬい (エラスチックステッチ)</p> <p>模様ぬい パッチワーク</p>
<p>模様押え</p>	T	<ul style="list-style-type: none"> ・連続もよう ・ワンポイント ・文字 	模様ぬい
<p>コンシールファスナー押え</p>	G		コンシールファスナーつけ
<p>ファスナー押え</p>	B		ファスナーつけ
<p>裁ち目かがり押え</p>	C		裁ち目かがり (オーバーロック)
<p>ブラインドステッチ押え</p>	D		ブラインドステッチ (まつりぬい)
<p>ステッチガイド押え</p>	L		直線ぬい (布端ステッチガイド)
<p>ボタン穴かがり押え</p>	E		自動ボタン穴かがり かん止めぬい ダーニングぬい
<p>手動ボタン穴かがり押え</p>	I		ボタン穴かがり (手動)

ぬい目の長さを調節(手動)にするには・・・

模様を選ぶと自動的に適正なぬい目がセットされていますが・・・



+ を押すと数字が大きくなります。

- を押すと数字は小さくなります。

自動の場合

直線ぬいの例

2.3

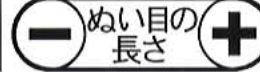


布地

手動の場合

数字が大きくなると・・・ぬい目が長くなります。

5.0

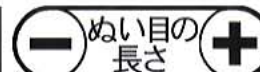


布地

自動の長さに戻したいときは、もう一度模様を選び直します。

数字が小さくなると・・・ぬい目が短くなります。

1.5



布地

※ **--** が表示されている場合は変更できません。

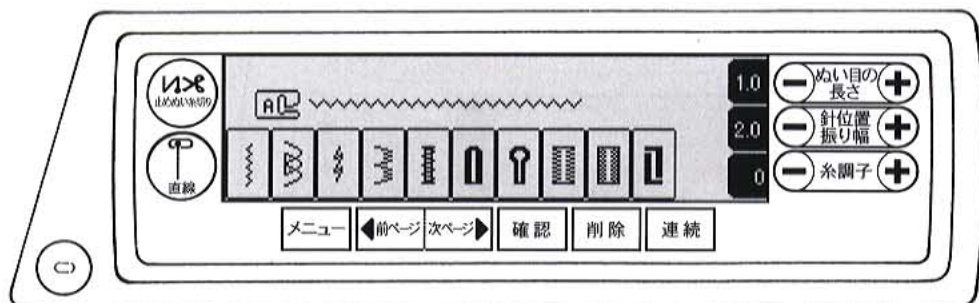
※ぬい目の長さの表示される数字は
0.0/0.2~1.0/1.5/2.0/2.3/2.5/3.0/3.5/4.0/4.5/5.0です。
※ -- の表示される模様はボタンを押しても表示は変わりません。

各模様のぬい目の長さの自動と調節できる範囲

模様															ワンポイント
自動	2.3	1.5	0.4	1.0	2.0	1.0	2.0	0.5	0.4	0.6	1.0	2.0	0.4	0.4	
手動の範囲	0.0~5.0		0.0~1.0	0.0~2.0	0.0~5.0		0.0~4.0	0.0~1.0		0.0~2.0		0.2~1.0	0.2~1.0		

模様									ワンポイント	連続もよう文字
自動	-									
手動の範囲	-									

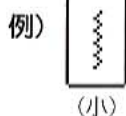
針位置／振り幅を変えるには・・・



+ を押すと数字が大きくなります。

- を押すと数字が小さくなります。

1. 振り幅



自動の場合

シグザグぬいの例



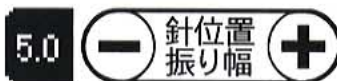
手動の場合

※ **-** が表示されている場合は変更できません。

数字が大きくなると・・・振り幅が広がります。



自動の幅に戻りたいときは、もう一度模様を選び直します。



数字が小さくなると・・・振り幅が狭くなります。



2. 針位置

ブラインドステッチなどの針落ちの調整に使用します。



折り山にぬい目がかからない場合



- を押して針落ちを左にずらします。
(はずみ車をまわして針落ちを確認し、針を上上げてから調整してください。)

折り山にぬい目がかかりすぎた場合



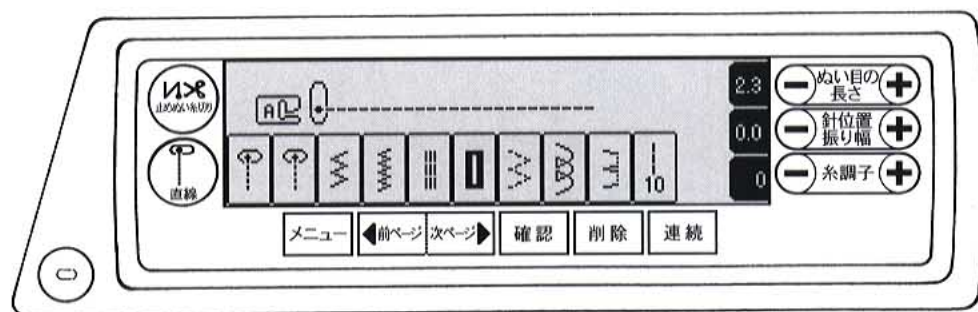
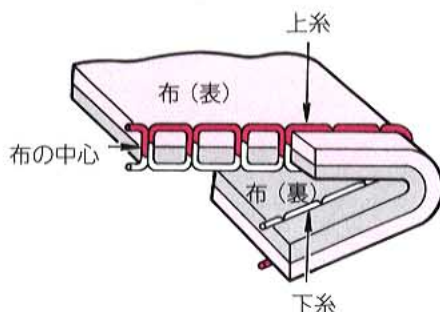
+ を押して針落ちを右にずらします。
(はずみ車をまわして針落ちを確認し、針を上上げてから調整してください。)

※ **-** が表示されている場合は変更できません。

糸調子を調節(手動)にするには…

このミシンはコンピューターにより通常のぬいには最適な自動糸調子になっています。
特殊なぬいで糸調子を変えるには…

通常のよい糸調子は
布の中心で上糸と下糸が
からみます。



上糸調子を強く
したいとき
⊕を押します。



8段階に強くなります。



上糸調子を弱く
したいとき
⊖を押します。



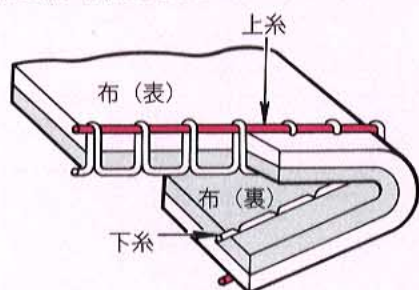
8段階に弱くなります。



※変更した糸調子を一度に自動に戻すには
もう一度模様を選び直してください。

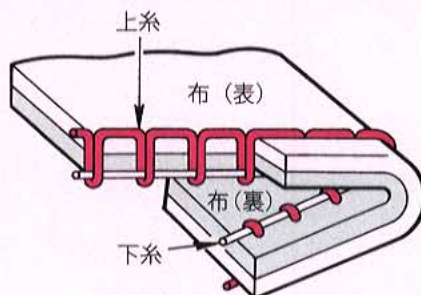
●糸調子を強くしたとき…

布の表から見て下糸が見える



●糸調子を弱くしたとき…

布の裏から見て上糸が見える



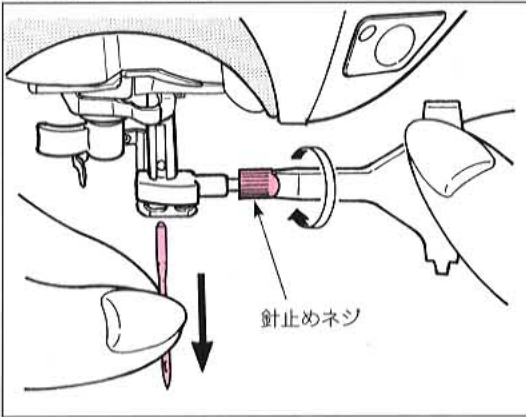
※いせ込み・ギャザー寄せは、ぬい目の長さとし糸調子の手動を使います。(33ページ参照)

針の交換

注意 針の交換のときは電源スイッチを切ってください。

基本操作

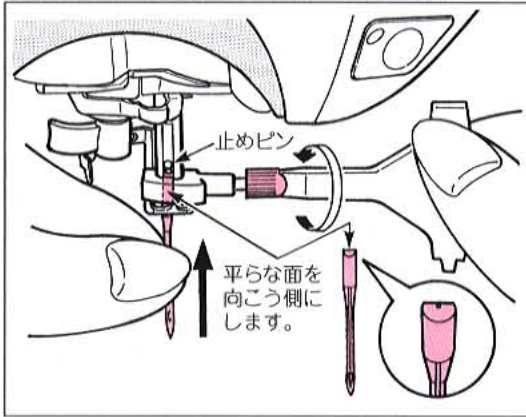
1. 針のはずし方



- ①針を最上部にあげます。
- ②針止めネジをゆるめます。

2. 針の取り付け方

(針が正しい向きでないと、取り付けません)



- ①針の平らな面を向こうにして止めピンに突き当てます。
- ②針止めのネジをしめます。

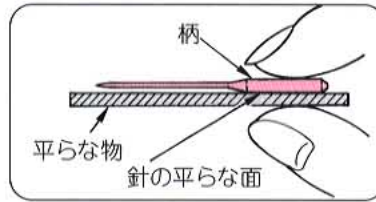
●針の選び方

針をお買い求めの際は、家庭用ミシン針のHAX1、またはHAX1SP（ニット針）を指定します。



太さの番号表示
数字が大きくなると
針が大きくなります。

●針の調べ方



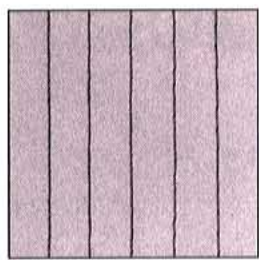
すき間が針先まで平均に見えるのが良い針です。針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにします。

●布地に合った糸と針の選び方

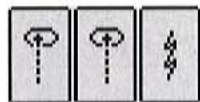
	布地	ミシン糸	ミシン針
薄地ぬい	ローン	絹ミシン糸80番~100番	9番
	ジョーゼット	化繊・細ミシン糸90番・100番	11番
	トリコット	化繊ミシン糸60番~100番	ニット針11番
	ウール・化繊布	絹ミシン糸80番 化繊ミシン糸60番~100番	11~14番
普通地ぬい	普通木綿・化繊布	綿糸60番~80番 化繊ミシン糸50番・60番	11~14番
	薄手ジャージー	絹ミシン糸50番 化繊ミシン糸50番・60番	ニット針11番
	一般ウール・化繊布	絹ミシン糸50番 化繊ミシン糸50番・60番	11~14番
厚地ぬい	デニム	綿糸30番~50番 化繊ミシン糸30番~50番	14~16番
	ジャージー	絹ミシン糸50番 化繊ミシン糸50番・60番	ニット針11~14番
	コート	絹ミシン糸50番	11~14番

(付属品のニット針は、針の柄部分に青の着色があります)

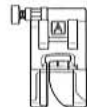
直線ぬい



選ぶ模様



使う押え



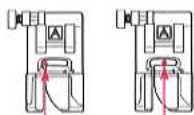
基本押え (A)

注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

直線ぬいは、ぬいの基本です。
布地に適した針と糸を選びましょう。

針の落ちる位置



左基線

中基線



: 左基線の直線模様です。
(自動的に選ばれます。)



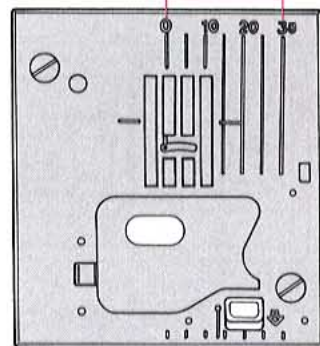
: 中基線の直線模様です。



: 伸縮地用の直線模様です。

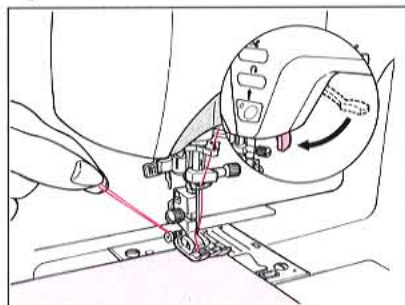
針板の刻線

左基線からの長さです。



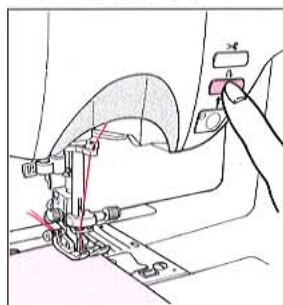
実用ぬい

1 返しぬいの分だけ後ろへ布地



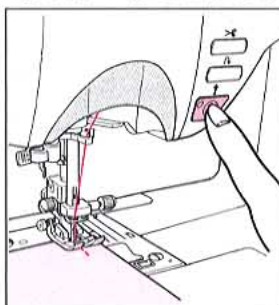
布地を押えの下におき、ぬい始める位置に針をおとします。上・下糸をそろえて押えをさげます。

2 返しぬいボタンを押します。

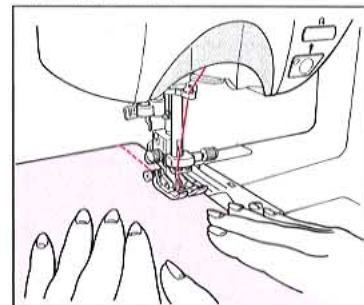


押してる間だけ返しぬいをします。

3 スタートさせます。



4 布地に軽く手をそえます。



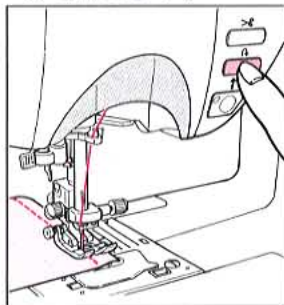
ぬっている間は布地をムリに引っ張らないようにします。

5 ぬい速度を調節します。



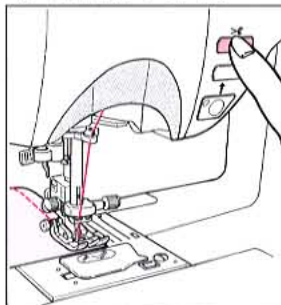
上にあげるとはやくなります。
下にさげるとおそくなります。

6 返しぬいボタンを押します。



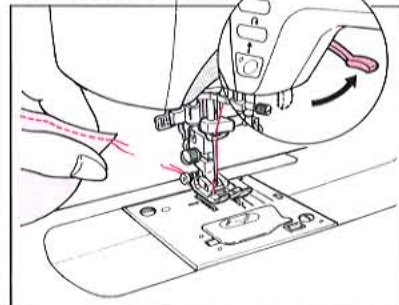
※返しぬいをしない場合はスタート・ストップボタンを再度押してストップさせます。

7 糸を切ります。



糸切りボタンを押します。

8 押えをあげて布地を取り出します。



針が完全に止まってから、押え上げレバーを上へあげます。
上・下糸が同時に切れて、布地が取り出せます。

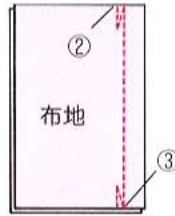
自動止めぬい（返しぬい）

ぬい模様を選んでから


 を押します。


ぬい始め、ぬい終りに3針の返しぬい（止めぬい）をして、最後に上・下糸の糸切りをして止まります。

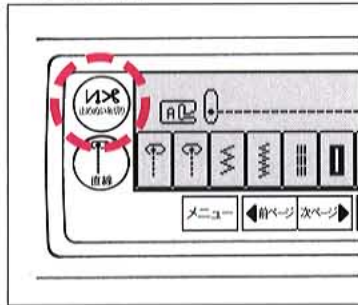
例：直線ぬい




*自動止めぬいを解除するには3通りの方法があります。

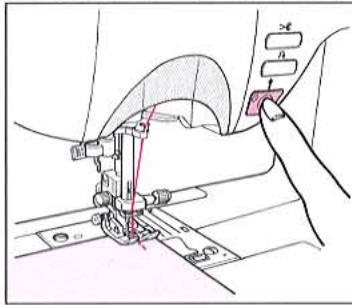
- (1) もう一度  を押します。
- (2) 他の模様を選びます。
- (3) 電源を入れ直します。

①模様を選んだあと  を押します。



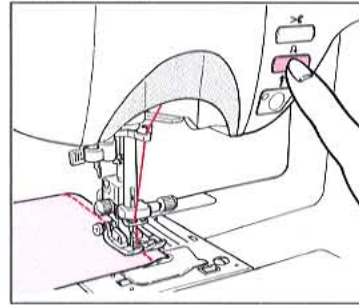
 が画面に表示されます。

②布地をぬい始める位置に入れ、スタートさせます。



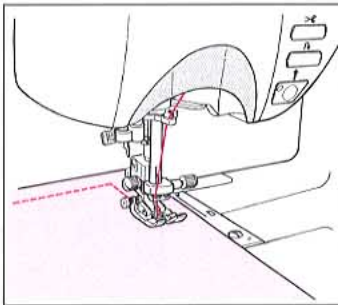
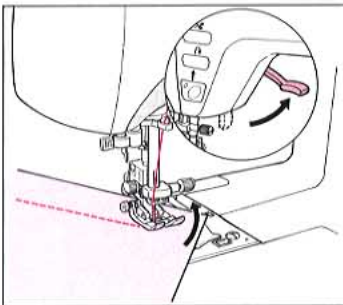
3針の返しぬいをして、ぬい進みます。

③返しぬいボタンを押します。



所定の位置で返しぬいボタンを押します。3針の返しぬいをして、所定の位置で自動的に止まり、上・下糸の糸切りをします。

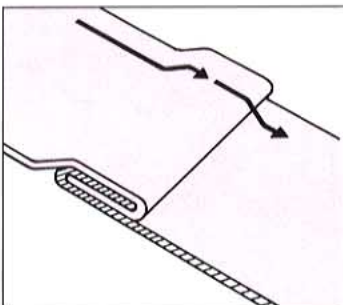
■ぬい方向を変えるには



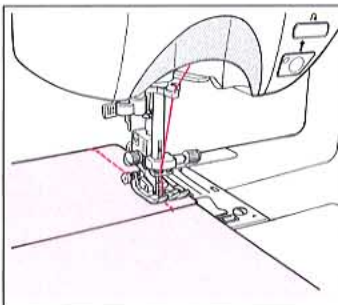
所定の位置でストップさせて押えをあげ、針を軸にして布地を回し、ぬい方向に正しくセットします。

押えをさげてぬい始めます。

■ぬいしろの重なっている部分のぬい方

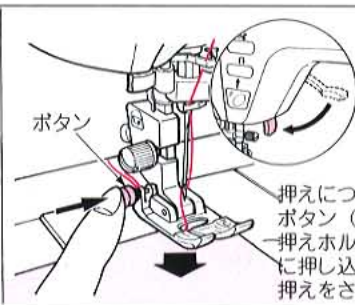
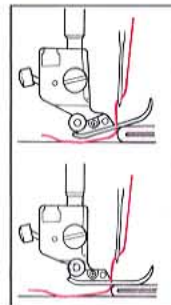


ぬいしろの重なりや、極端に厚みに差ができているところは、ぬいしろを倒した方向にぬいます。



手で少しずつ布の送りを助けながらぬっていきます。
※薄地のぬい始めは上・下糸を進む方向に軽くひっぱりながらゆっくりとぬいます。

■厚地のぬい始め

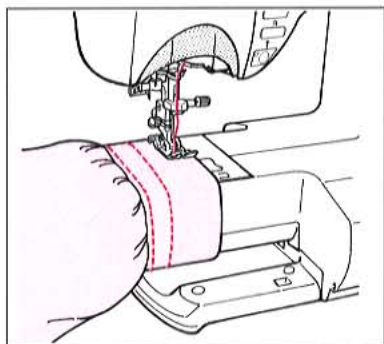


押えに付いているボタン（パネ）を押えホルダーのミソに押し込みながら押えをさげます。

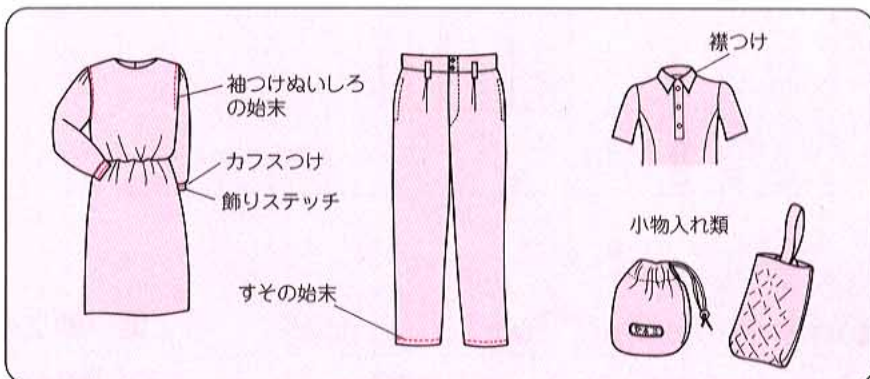
ぬいしろが重なった布端よりぬう場合は、押えに付いているボタンを使うと、押えが布地と平行になり、スムーズにぬうことができます。

筒ぬい (フリーアーム)

カフスつけ、ノースリーブの見返しつけ、袖口、ズボンのすそなど、筒型部分をぬうのに大変便利です。

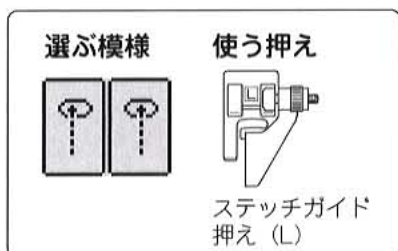


補助ベッドを左側へ引いて、はずします。

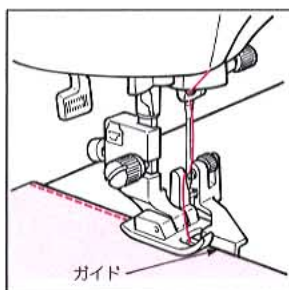


端ぬい

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

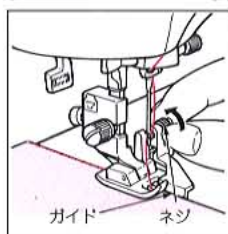


布地の端をぬうときに使います。

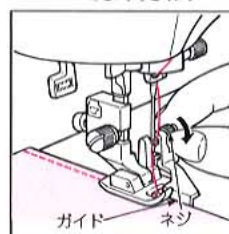


ガイドに布の端をピッタリつけてぬいます。

●ステッチガイド押えのガイド調節方法

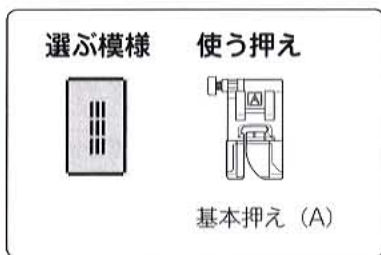
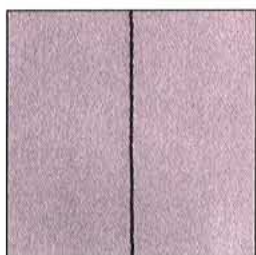


より布端をぬいたい場合
ネジを向こう側に回しますとガイドは左へずれます。ずれたガイドに布端をピッタリつけます。



布端より少し内側をぬいたい場合
ネジを手前に回しますとガイドは右へずれます。ずれたガイドに布端をピッタリつけます。

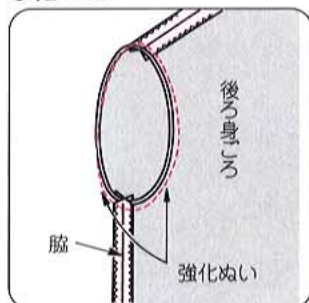
伸縮強化ぬい



注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

伸縮性のある布地や、力がかかってほつれやすい部分などに使うと、ぬい目がはっきりします。

●袖つけ

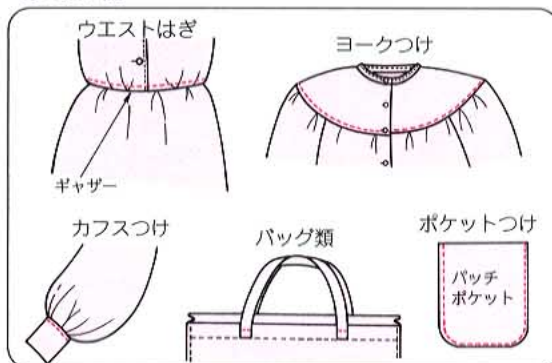


後ろ袖や、袖下に力がかかり、ほつれやすいところに使います。

●パンツ類の股ぐり



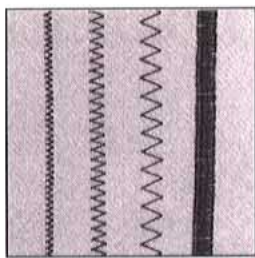
●その他



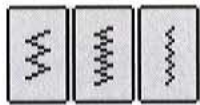
ぬい合わせる布の一方にギャザーやタック、プリーツなどが入っているとき(ウエストはぎ、カフスつけ、ヨークつけなど)使うと、ぬい目がはっきりとできあがります。

実用ぬい

ジグザグぬい

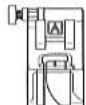


選ぶ模様



(大) (中) (小)

使う押え



基本押え (A)

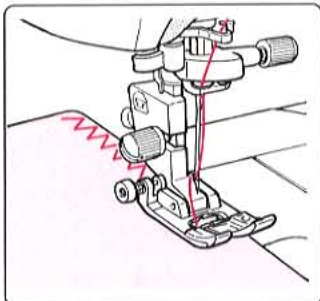


注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

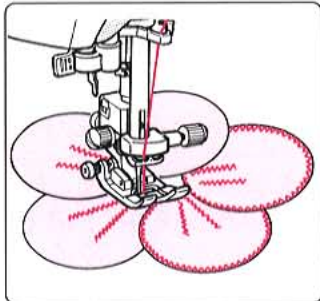
実用ぬい

●裁ち目かがりの場合



針は布端ぎりぎりのところへおとします。

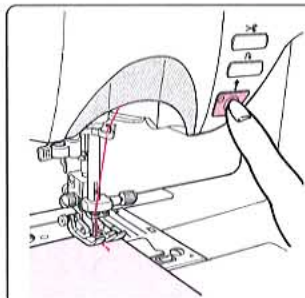
●アップリケの場合



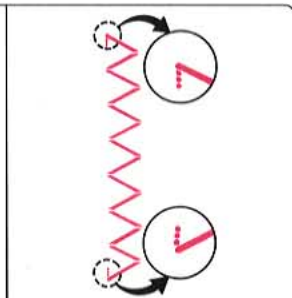
カーブをぬうときはジグザグ模様(小)か(中)を選び、ぬい目を細くします。針をアップリケ布の端より少し外側へおとします。

■自動止めぬい

ぬう模様を選んでから  を押します。布地をぬい始める位置に入れ、スタートさせます。



3針の止めぬいをしてからぬい進みます。



所定の位置で返しぬいボタンを押します。3針の止めぬいをして、所定の位置で自動的に止まり、上・下糸の糸切りをします。

※必ず返しぬいボタンでストップさせてください。返しぬいボタンを押さずにミシンをストップさせ、ぬう場所を変えて再度スタートさせると、(模様を選び直さないかぎり)止めぬいをしないで前のもよりの続きをぬい始めてしまいます。

●ジグザグ模様の振り幅／ぬい目の長さ

	振り幅		
	(小) 2	(中) 3.5	(大) 5
ぬい目の長さ	自動 1.0	自動 1.5	自動 1.5
手動の範囲	0.2~5.0	0.2~5.0	0.2~5.0

振り幅を変えるには

画面上の振り幅を変更して選びます。

●振り幅を小さくするには



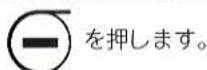
●振り幅を大きくするには



ぬい目の長さをえるには

画面上のぬい目の長さを調整して選びます。

●ぬい目の長さを小さくするには



●ぬい目の長さを大きくするには

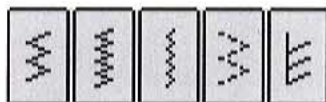


裁ち目かがり

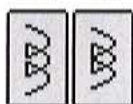


布地の裁ち目がほつれるのを防ぐために用います。

選ぶ模様



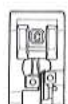
(大) (中) (小)



使う押え



基本押え (A)



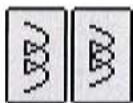
裁ち目かがり押え (C)

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

ご注意：

裁ち目かがり押え (C) は

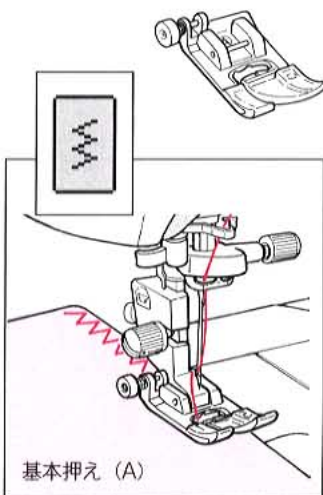
縁かがり模様



だけにご使用ください。

その他の模様は押えに針がぶつかります。

基本押え (A)



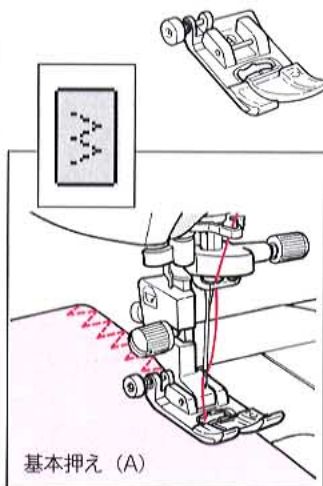
ジグザグぬいの裁ち目かがり

薄地の布で布端が丸まりやすい場合に使います。

※薄地や普通地では振り幅を小さめにします。

基本押え (A)

基本押え (A)

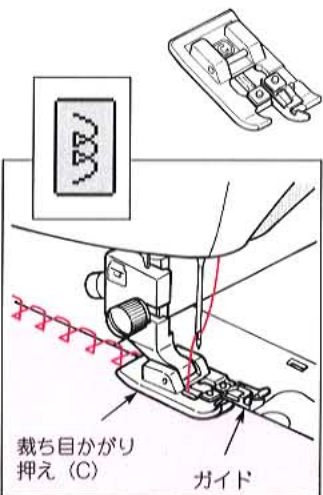


三点ジグザグぬいの裁ち目かがり

ほつれやすい布、伸縮性のある布に利用します。

基本押え (A)

裁ち目かがり押え (C)



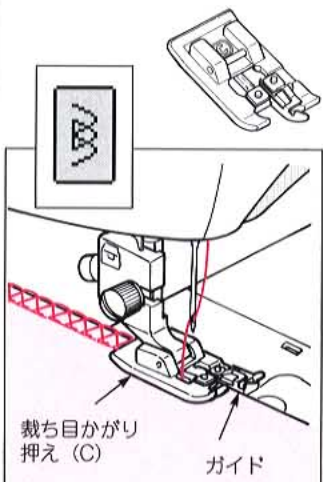
薄地用の裁ち目かがり

布地の裁ち目のほつれ止めとして広く使います。布端に針が落ちるようにぬいます。

裁ち目かがり押え (C)

ガイド

裁ち目かがり押え (C)



オーバーロックの裁ち目かがり

裁ち目のほつれ止めとして広範囲に利用できます。布端を押えのガイドにあてて、ぬいます。

裁ち目かがり押え (C)

ガイド

しつけぬい



<p>選ぶ模様</p>	<p>使う押え</p> <p>基本押え (A)</p>
-------------	-----------------------------

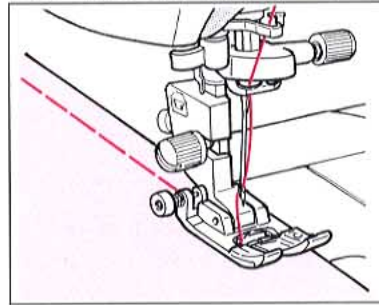
注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

まつりぬいやファスナーつけなど、このしつけぬいをしますと、あとの糸ぬきが簡単にできます。

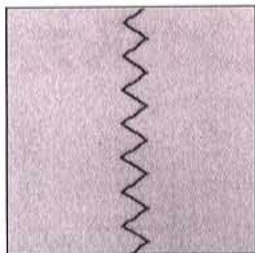
実用ぬい

模様を選び、上・下糸をそろえて後ろへ出してから、スタートさせます。

	<p>: 1センチごとの針落ち (ぬい目) になります。</p>
--	----------------------------------



三点ジグザグ

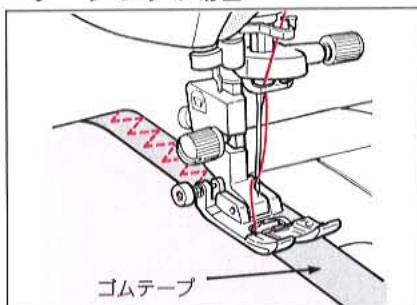


<p>選ぶ模様</p>	<p>使う押え</p> <p>基本押え (A)</p>
-------------	-----------------------------

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

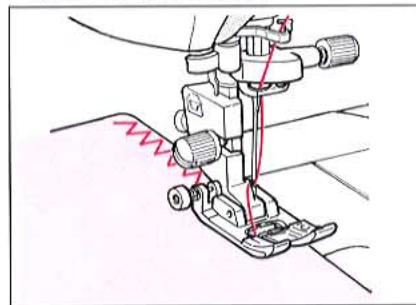
ゴムテープ、のび止めテープ、インサイドベルトを布地にぬい止める場合や伸縮素材の裁ち目かがりなどに、三点ジグザグぬいを使います。

■三点ジグザグのテープつけの場合



ゴムテープを前後にのばしながらぬいます。

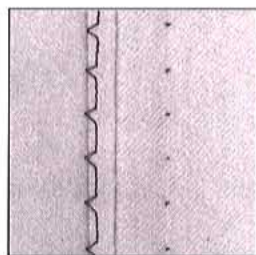
■三点ジグザグの裁ち目かがりの場合



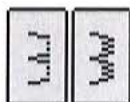
ほつれやすい布、伸縮性のある布に利用します。布端に針が落ちるようにぬいます。

(まつりぬい)

ブラインドステッチ



選ぶ模様



使う押え



ブラインドステッチ
押え (D)

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

スカートやワンピースなどの、
すそのまつりが簡単にできます。

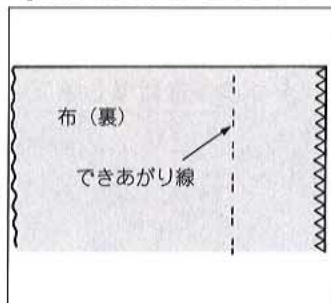


: 普通地用

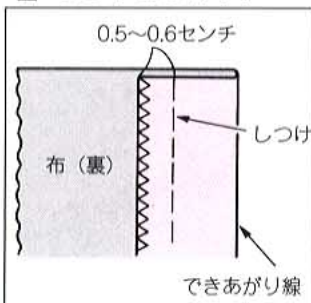


: 伸縮地 (ジャージー、ニット地など) 用

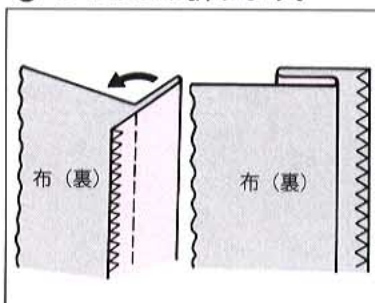
1 裁ち目がかりをします。



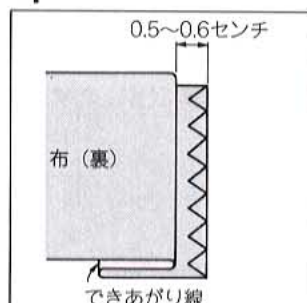
2 しつけをします。



3 しつけより折ります。



4

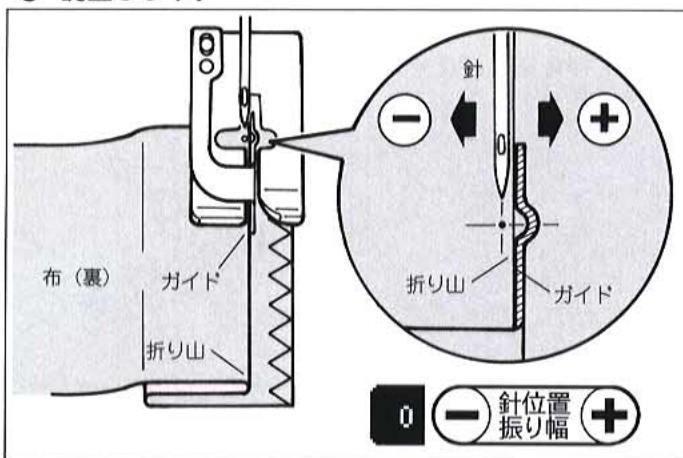


- 裁ち目がかりは22ページ参照
- しつけぬいは23ページ参照

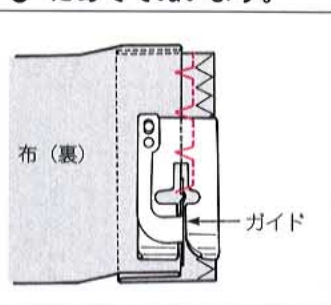
※0.5~0.6センチ出します。

5

はずみ車を回して、針を折り山付近まで下げ
針位置キーで折り山にぬい目がかかるように
調整します。

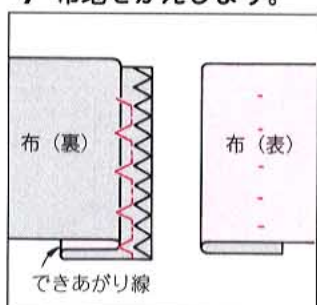


6 折り山を押えのガイド



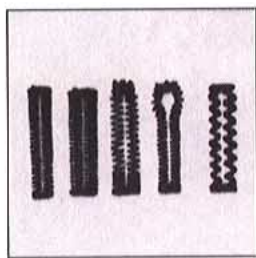
押えのガイドを折り山にピッタリあててぬいます。

7 布地をかえします。



布地をかえして、できあがり
に整えます。

両かん止め／ハトメ穴かがり



選ぶ模様

使う押え

ボタン穴
かがり押え (E)

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



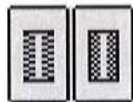
薄い布地（シャツ、ブラウスなど）の小さいボタンに使用します。



厚い布地（スーツ、オーバーなど）の大きいサイズのボタンに使用します。

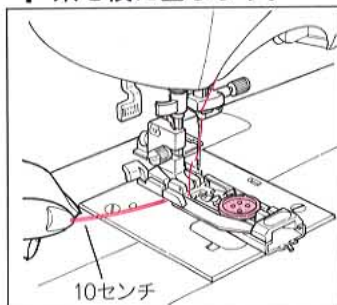


薄い布地（シャツ、ブラウスなど）の大きいボタンに使用します。



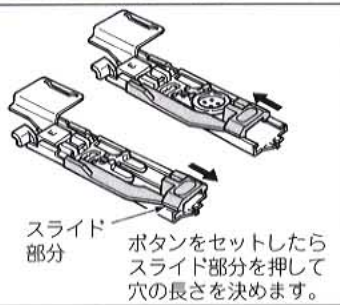
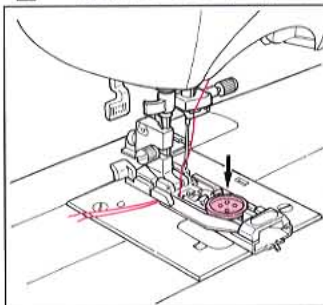
ニット地に使用します。

1 糸を横に出します。



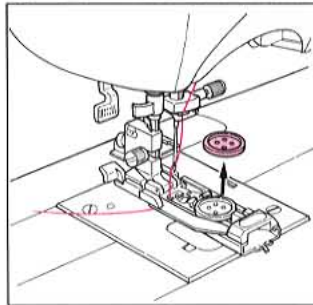
上糸を押えの下へくぐらせます。

2 一度押えをさげて、ボタンをセットします。



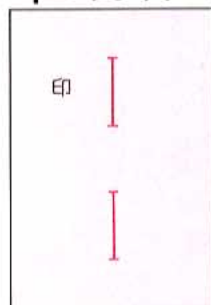
かがり穴の長さはボタンをセットするだけで自動的に決まります。（押えにボタンがのらないときは、ボタンの直径+ボタンの厚みが、かがり穴の長さです。）

3 ボタンをはずします。



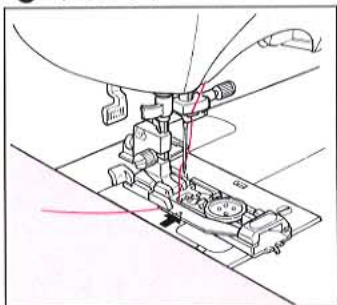
長さが決まりましたらボタンをはずします。

4 布地に印をつけます。

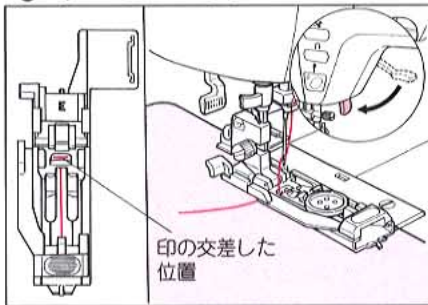


ボタン穴の位置にチャコで印をつけます。

5 布地を入れます。

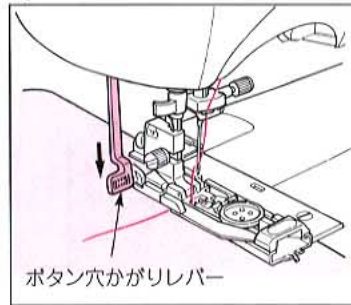


6 印に合わせて押えをさげます。



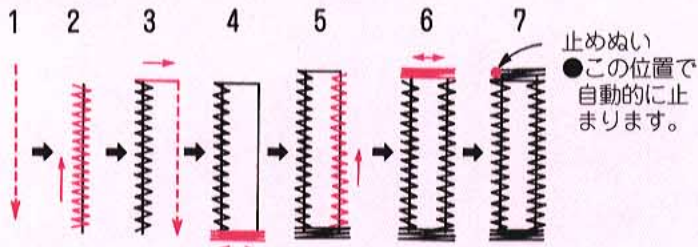
印を押えの針穴の中心に正しくセットして、押えをさげます。

7 ボタン穴かがりレバーをさげます。

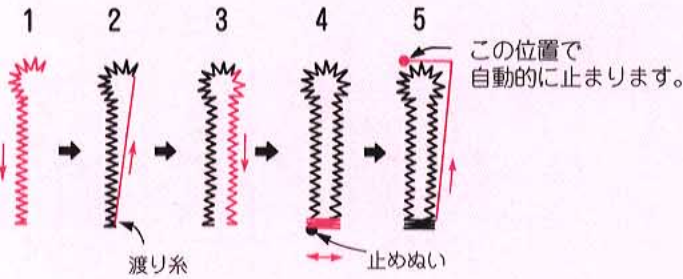


レバーを止まる場所までさげます。

●自動ボタン穴かがりのぬわれる順序



止めぬい
●この位置で自動的に止まります。



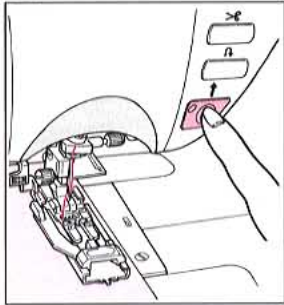
この位置で自動的に止まります。

渡り糸 止めぬい

8 ぬい速度を決めます。

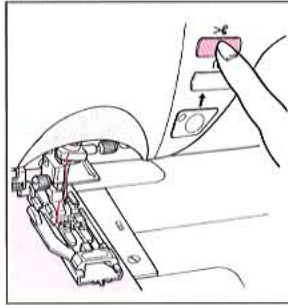


9 スタートさせます。



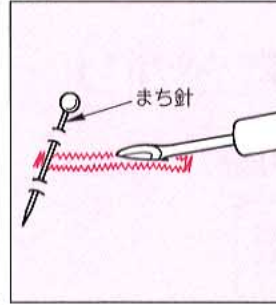
スタート・ストップボタンを押します。

10 ぬい終わったら糸を切ります。

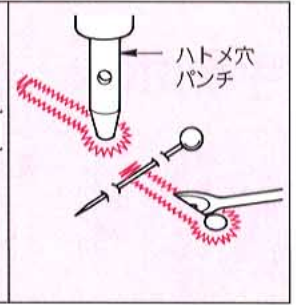


糸切りボタンを押します。
※ボタン穴の2個目からは布地の次の印に合わせ押えをさげてぬうことができます。

11 リッパーで穴をあけます。



リッパーでぬい糸を切らないように中央の布地を切り開きます。
かん止めの所にまち針をさしますと切りすぎがありません。




厚紙などを下に置いて、ハトメ穴パンチで穴をあけてから、リッパーを使ってください。

※ボタン穴の大きさをまちがえたり、途中で糸切れしたときは、ミシンを止めて模様を選びなおして最初からぬってください。
ぬいの途中で押えをあげると途中までのぬいがクリアされます。

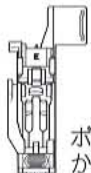
自動ボタン穴かがり 芯入りボタン穴かがり

芯糸を入れてぬうとボタン穴の伸びを防ぎ、丈夫なボタン穴かがりができます。芯糸にはレース糸、穴糸などを使用します。

選ぶ模様



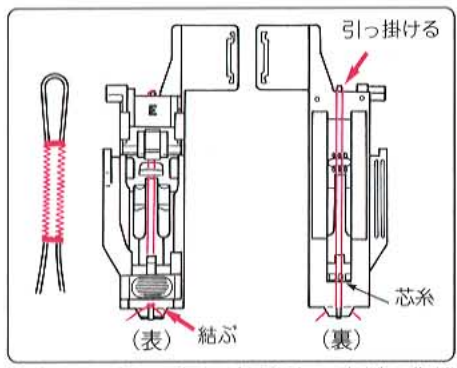
使う押え



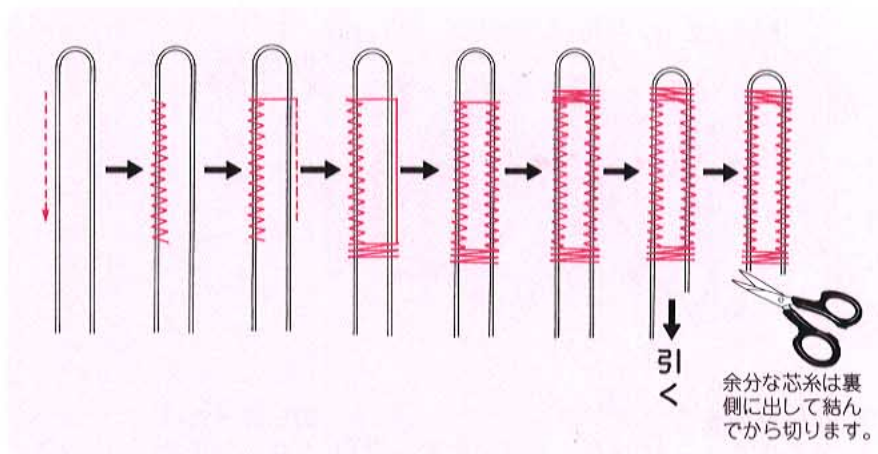
ボタン穴
かがり押え (E)

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

●芯入りボタン穴かがりの芯のかけ方



芯糸を、ボタン穴かがり押えの裏側の先端に引っ掛けて、裏側の手前側を結びます。そのままボタン穴かがり押えを取り付けて、穴かがりをすれば芯糸入りのボタン穴かがりができます。



実用ぬい

手動ボタン穴かがり



選ぶ模様



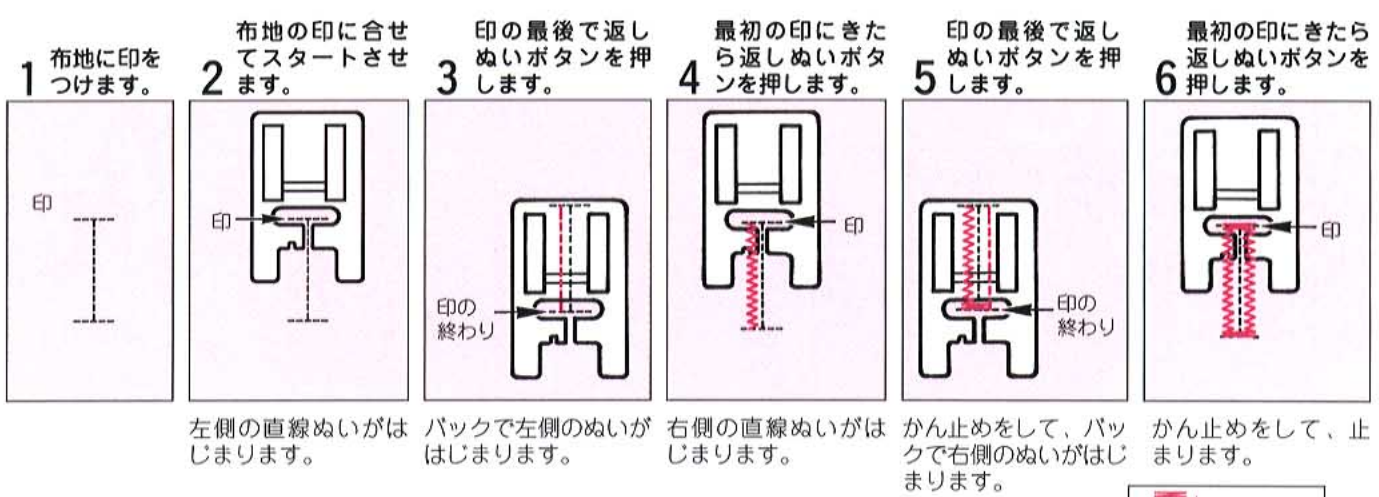
使う押え



手動ボタン穴
かがり押え (I)

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

布地に段差がある場合や、せまい場所などに穴かがりをぬいたい場合に適します。(必ずためしぬいをしてください。)








便利な使い方

2~6の操作で、ボタン穴かがりの長さがミシンに記憶されます。同じ長さのボタン穴かがりをぬうには、ぬう場所を変え、スタートボタンを押しますと、返しぬいボタンを押さなくても、自動的に穴かがりがぬわれ、止まります。前もって、止めぬい/糸切りキーを押しておく、止まったときに糸切りが行われ、便利です。

ぬい目の詰まり具合を変えるには

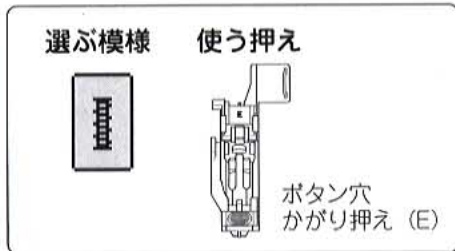
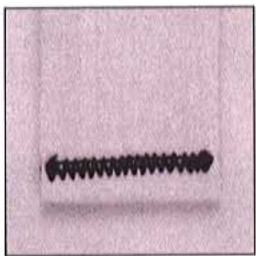
ぬい目の詰まり具合

・2のスタートボタンを押す前に **0.4**  **ぬい目の長さ**  で変更します。

・ボタン穴かがりをぬった後に変更する場合は、もう一度  を押した後、**0.4**  **ぬい目の長さ**  で変更して、2~6の操作をしてください。

注意：ぬい目の長さを小さくすると、布や糸の太さにより、ぬい進まなくなる場合がありますので、必ずためしぬいをしてください。

かん止め



注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

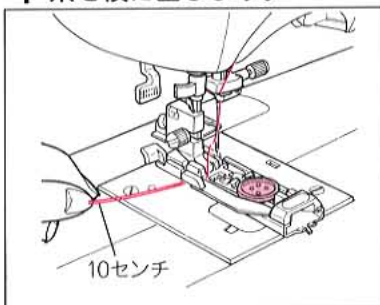
ほつれやすい部分に使うとぬい目がしっかりします。

*かん止めの長さは、返しぬいボタンを押すことで決まりますが、最長20針までで自動的にUターンします。
*段部などで押えが水平にならないときは、あて布や厚紙をご使用ください。



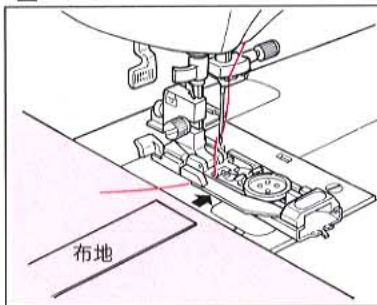
実用ぬい

1 糸を横に出します。

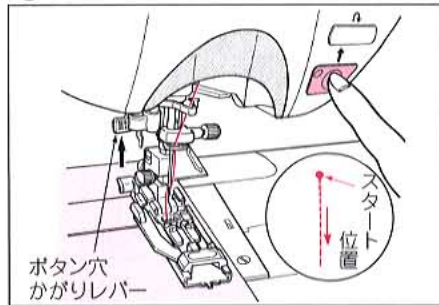


上糸を押えの下へくぐらせます。

2 布地を入れます。

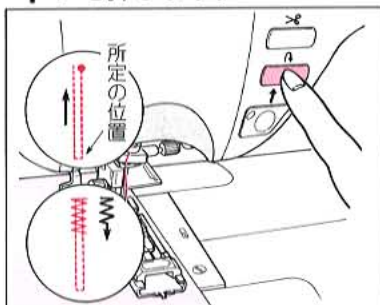


3 ボタン穴かがりレバーをあげたままスタートさせます。



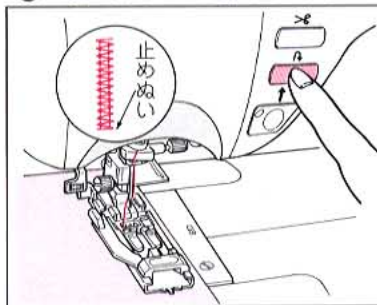
スタート・ストップボタンを押すと直線ステッチが始まります。

4 所定の位置で返しぬいボタンを押します。



スタート位置へ直線ステッチで返り、ふたたび自動的にシグザグぬいで戻ってきます。

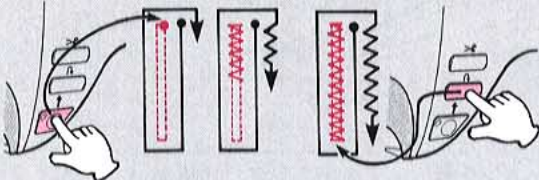
5 所定の位置まできたら返しぬいボタンを押します。



止めぬいをして止まります。

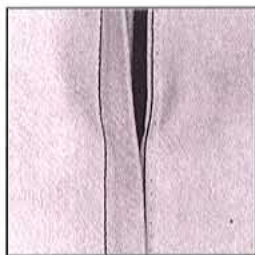
同じ長さのかん止めをつづけてぬうには・・・
1つ目のかん止めの長さが記憶されていますので

- スタート・ストップボタンを押すと自動的にUターンします。
- ぬい終り位置にきたら返しぬいボタンを押してください。



*記憶されたかん止めの長さを変更したいときは、もう一度、模様を選びなおしてください。

ファスナーつけ



選ぶ模様



使う押え



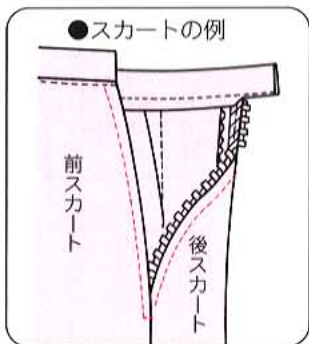
ファスナー押え (B)



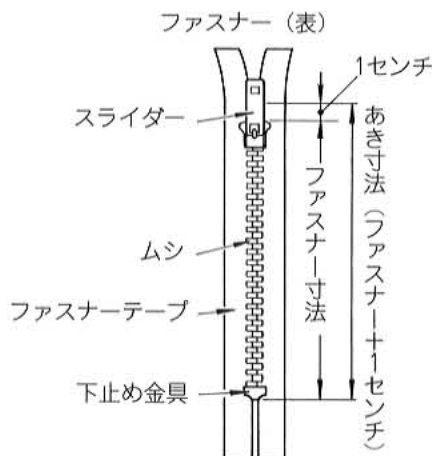
注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

スカート、スラックス、ワンピースなどのあきの始末に用います。

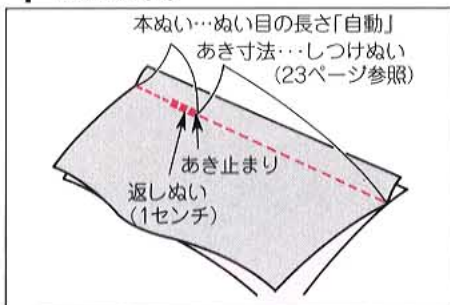
実用ぬい



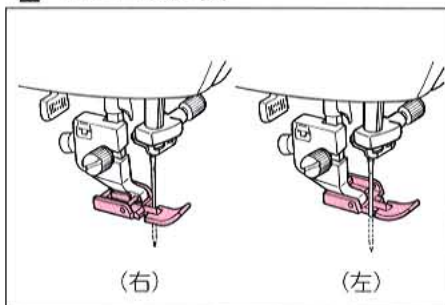
必ず中基線の直線でぬってください。



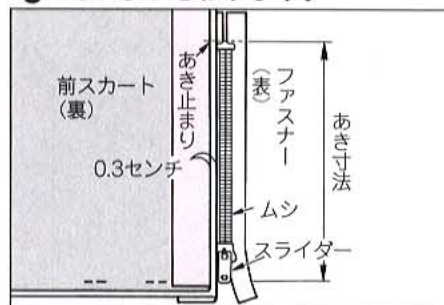
1 基本押え (A) を使ってぬいます。



2 ファスナー押え (B) をセットします。



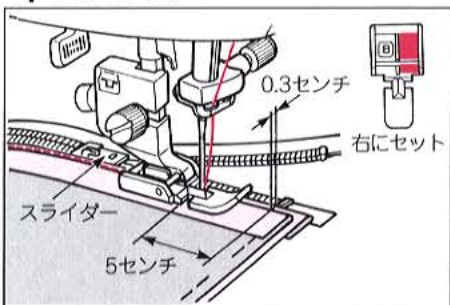
3 ぬいしろをわります。



ファスナーの左側をぬうときは、押えの右へセットします。右側をぬうときは、左へセットします。

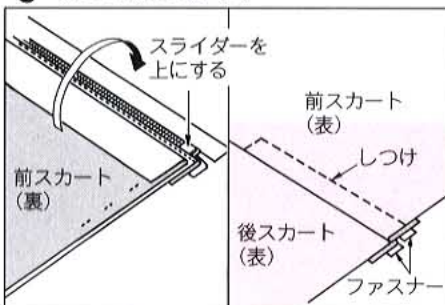
ぬいしろをわり、後ろスカートのぬいしろを0.3センチ出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をムシのきわにあてます。

4 左側をあき止まりからぬいます。



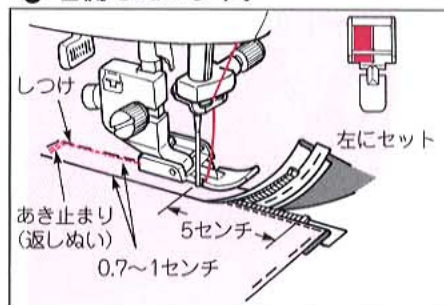
0.3センチ幅の中央をあき止まりからぬいます。手前5センチ位でミシンを止めて、スライダーを向こう側へさげて、端までぬいます。

5 前スカートをかえてしつけをします。



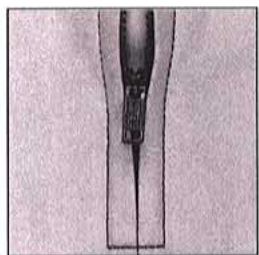
※布とファスナーテープを手のしつけで止めます。

6 あき止まりを返しぬいて、右側をぬいます。



返しぬいたあと、押えの左端をムシのきわにあて、0.7~1センチのミシンをかけます。手前5センチ位のところでしつけぬいのぬい目をほどこき、押えの向こう側までスライダーをさげます。そして残りの部分をぬいます。

ファスナーつけ



選ぶ模様



使う押え



ファスナー押え (B)

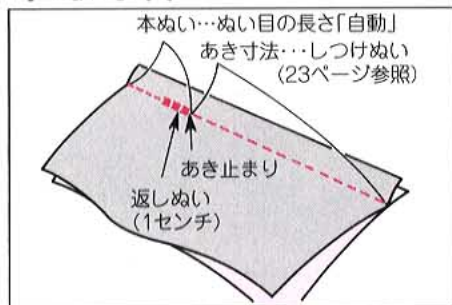
注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

バック、クッション、カバー類に使われるファスナーつけの方法です。

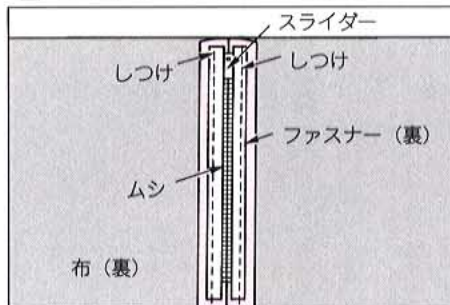


: 必ず中基線の直線でぬってください。

1 基本押え (A) を使ってぬいます。

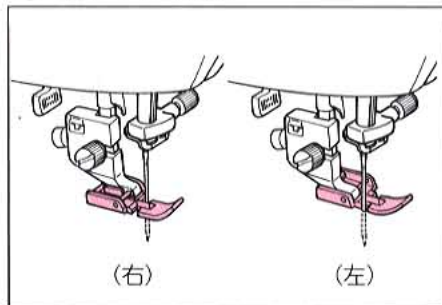


2 ファスナーをしつけます。



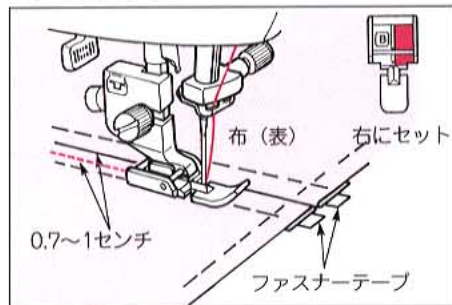
ぬいしろをわり、ぬい目線とファスナーのムシの中心を合わせて、表まで手のしつけで止めつけます。スライダーは上に倒します。

3 ファスナー押え (B) をセットします。



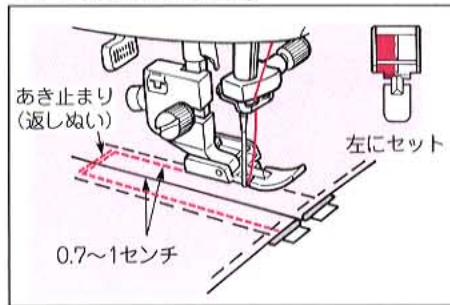
ファスナーの左側をぬうときは、押えの右へセットします。右側をぬうときは、左へセットします。

4 左側をあき止まりからぬいます。



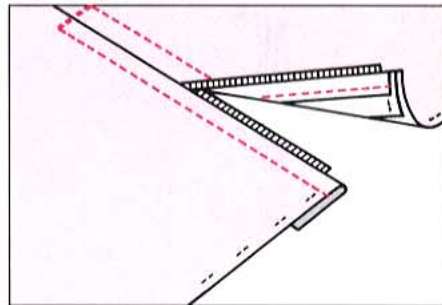
ぬい目から0.7~1センチはなして、あき止まりより上に向かってミシンをかけます。

5 右側をぬいます。

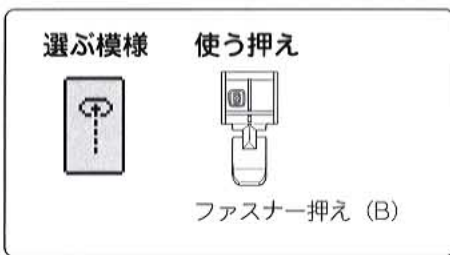
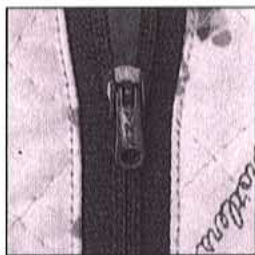


あき止まりを返しぬいで丈夫にぬい止め、もう一方も0.7~1センチはなしてミシンをかけます。

6 しつけぬい部分のみほどきます。



ファスナーつけ

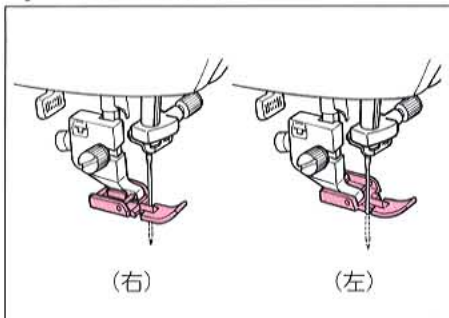


注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

ファスナーテープが見えるつけ方でポーチやバックに使われる方法です。

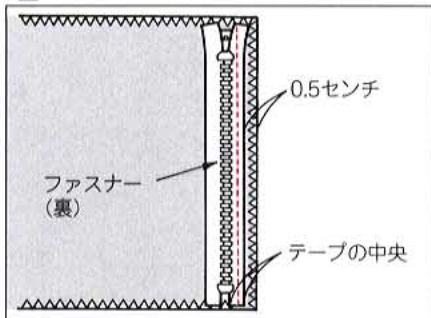
: 必ず中基線の直線でぬってください。

1 ファスナー押え (B) を
セットします。



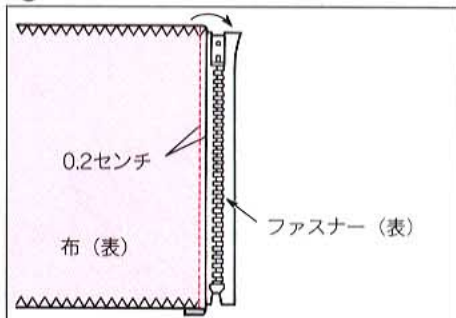
ファスナーの左側をぬうときは、押えの右へセットします。右側をぬうときは、左へセットします。

2



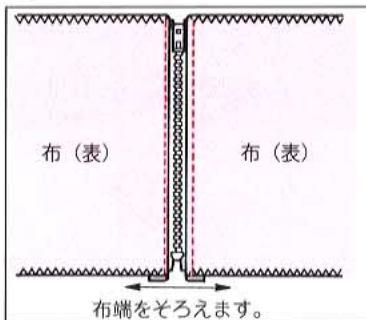
裁ち目がかりをした布地から0.5センチずらして裏にしたファスナーの片側テープの中央にミシンをかけます。

3



1.でぬったところからファスナーをかえして、その上に端から0.2センチのところへミシンをかけます。

4



もう片方の布地も1,2と同じようにぬいつけます。

コンシールファスナーつけ



選ぶ模様 使う押え



コンシールファスナー
押え (G)

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

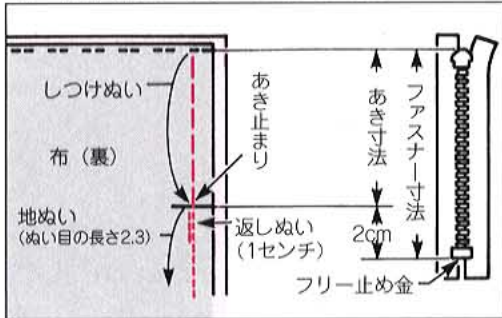
ファスナーのぬい目が布地の裏に出ないので、つき合わせの状態、あきの始末ができます。



: 必ず左基線の直線でぬってください。

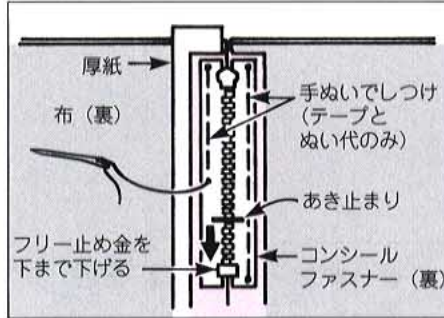
実用ぬい

1 ファスナーあき寸法を確かめ
基本押え (A) でぬいます。



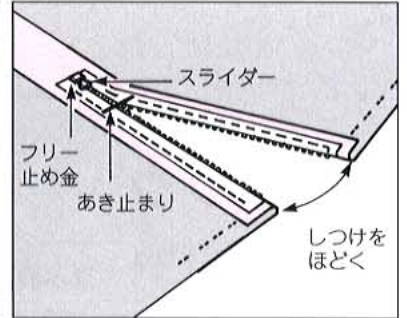
布地を中表に合わせ、布端よりあき止まりまでしつけぬいをします。
あき止まりからぬい目を(2.3)にして、1センチ返しぬいをし、所定の位置までぬいます。
ぬいしろをきちんと取ります。

2



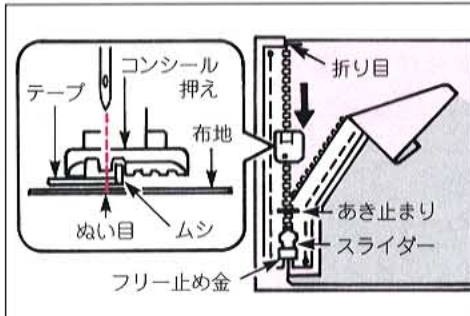
ぬい目線の上にコンシールファスナーの中心をのせて、ぬいしろと表布の間に厚紙を入れます。
ぬいしろとファスナーテープを両側とも手のしつけでぬい止めます。
しつけが終わったら厚紙をとります。

3



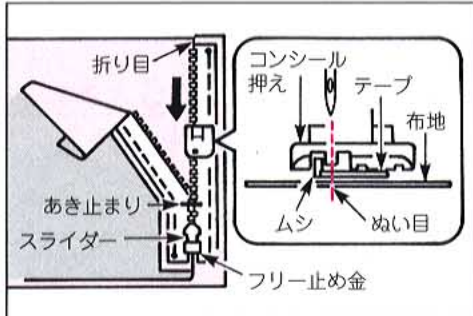
あき止まりまでぬったしつけぬいをほどいて、ファスナーを開きます。
スライダーをフリー止め金まで引き下げます。

4



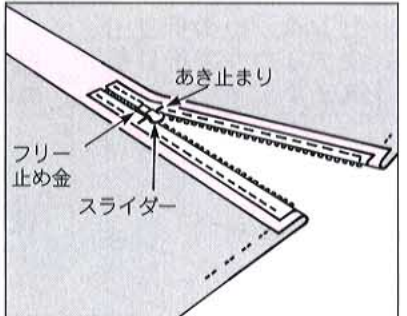
図のように左側の折り目を開き、あき止まりまでぬいます。
ファスナーのムシを押えのみぞに合わせ、指でムシを立てるようにして、ムシのきわにミシンをかけます。

5



もう一方のぬいしろも同じ方法でぬい合わせます。(ファスナーテープのあき止まりから下の部分はぬいしろに全部ぬいつけられずに、一部残ります。)

6



フリー止め金とスライダーをあき止まりまで移動させます。
フリー止め金をペンチ等ではさみ固定します。

いせ込み・ギャザーの寄せ方



選ぶ模様 使う押え

基本押え (A)

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

いせ込みをする場合：袖山やスカートのウエストなど外から布地のちぢめさせたのが見えないものに。
ギャザーをいれる場合：袖口やヨークなどに。

実用ぬい

ぬい目の長さを
1 変えます。

2 上糸をよわくします。

ぬい始め、ぬい終りに
上・下糸を5センチ位出
3 して2本平行にぬいます。

4 下糸を手で引いて布地を縮
めず。

ギャザー	4.0	ぬい目の長さ
いせ込み	2.0	ぬい目の長さ

糸調子: 0 → -4

ギャザーは3.0~4.0に、
いせ込みは1.5~2.0にします。

ぬい終りは5センチ以上布地を引
き出して、糸切りボタンを押して
ください。

ピンタック



選ぶ模様 使う押え

基本押え (A)

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

ブラウスの前身ごろやエプロンの装飾などに利用します。

ピンタックの折り山
をアイロンで折り整
1 えます。

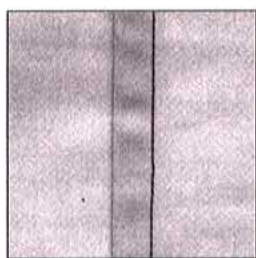
折り山を伸ばさないように
2 ぬいます。

ぬい終わったら片返しにし
て、アイロンをかけ、整
3 えます。

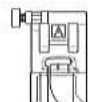
■応用例

- ブラウス
- エプロン

伏せぬい



選ぶ模様 使う押え

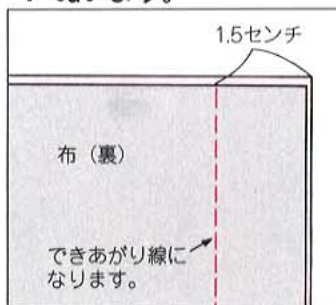


基本押え (A)

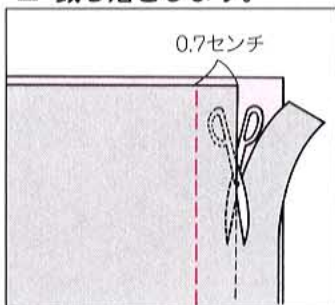
注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

丈夫できれいに端の仕上げを始末するときに使います。

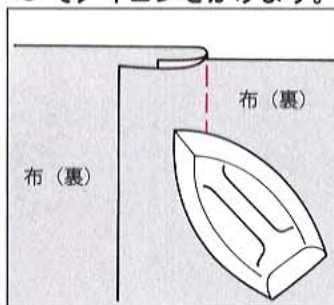
1 布地を合わせてぬいます。



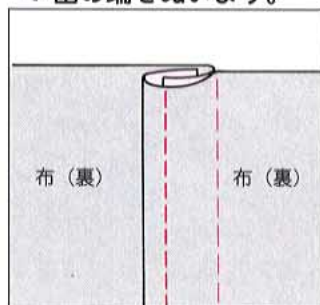
2 ぬいしろの半分を裁ち落とします。



3 できあがり線を軸に布地を広げ、2枚一緒に倒してアイロンをかけます。

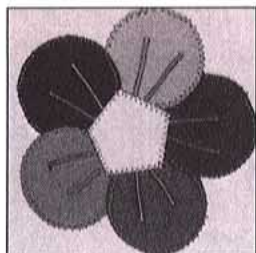


4 短いぬいしろを長いぬいしろでくるみ、折り山の端をぬいます。

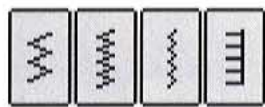


実用ぬい

アップリケ

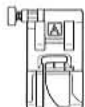


選ぶ模様



(大) (中) (小)

使う押え

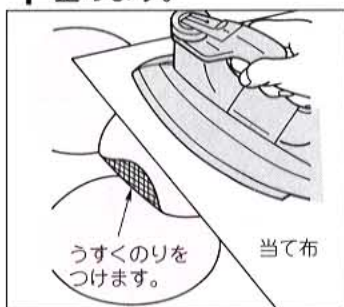


基本押え (A)

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

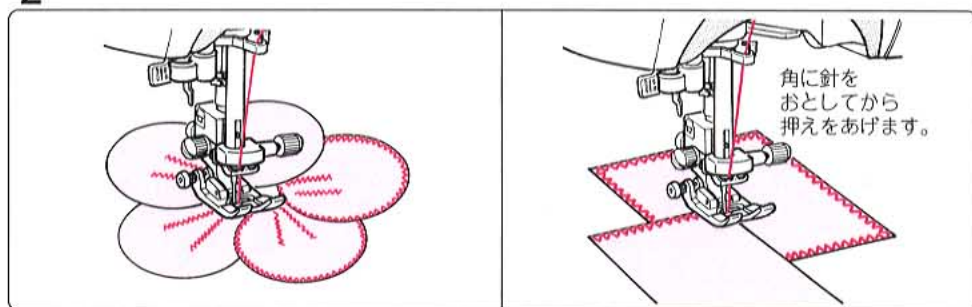
市販のアップリケ布や、自分で切り抜いたアップリケ布を丈夫に、簡単にぬいつけられます。

1 アップリケ布を止めます。



アップリケ布を正確のりづけ、またはしつけ止めて、当て布をあててかるくアイロンで押えます。

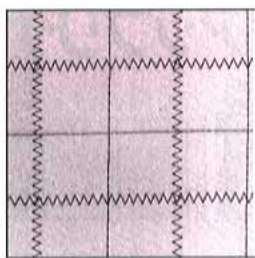
2



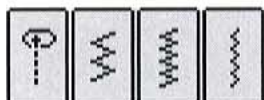
アップリケの布端を裁ち目がかりと同じ要領でぬいつけます。ぬい始めと終りは返しぬいスイッチを押して止めぬいをします。カーブの強いものは振り幅を小さくします。

急角度のところや、布地の方向を変えるときは、アップリケの布端に針をおとした状態で方向を変えるようにします。

キルティング

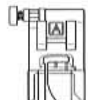


選ぶ模様



(大) (中) (小)

使う押え



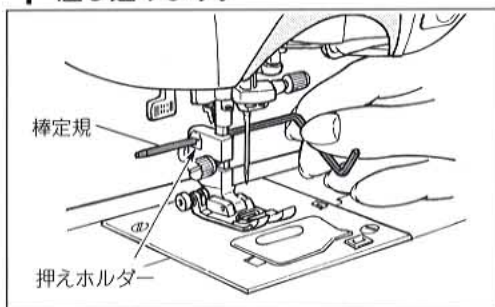
基本押え (A)

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

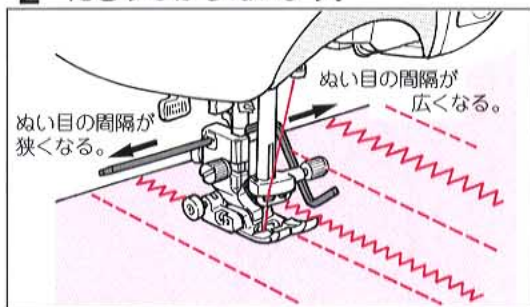
2枚の布地を合わせ、平行にぬい目を入れていく方法で、布地の間に綿などを入れると、防寒や、装飾に役立ちます。

実用ぬい

1 押えホルダーのみぞに棒定規を差し込みます。



2 棒定規の先でぬったぬい目をたどりながらぬいます。



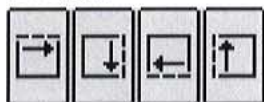
左右の間隔が自由に調節できます。

横送り (四方ぬい)

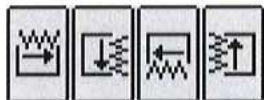


出来上がった袖やスポンの筒にワッペンをつける場合に便利です。押えをあげずに外周をぬい付けることができます。

選ぶ模様



直線



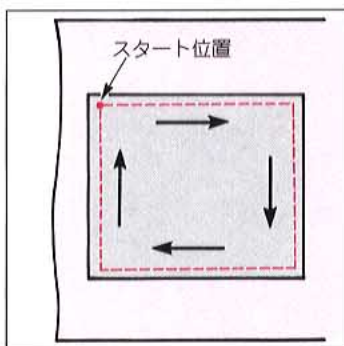
シグザグ

使う押え







模様押え (T)

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



(例：直線)
スタート位置を決めて

- (1)  を押し、角までぬいストップさせます。
- (2)  を押し、ぬいます。
- (3) 次に  を押し、ぬいます。
- (4) 最後に  を押し、一周ぬわれます。

パッチワーク



選ぶ模様

連続
の

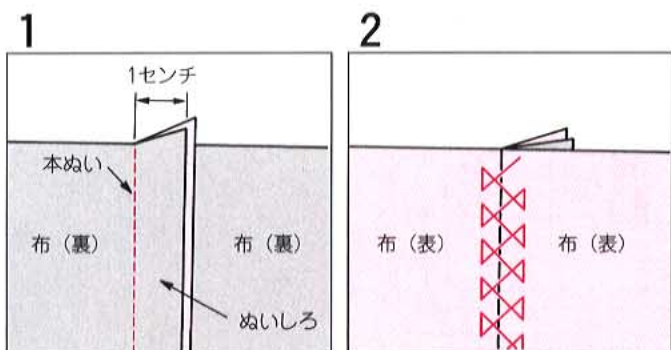
使う押え

基本押え (A)

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

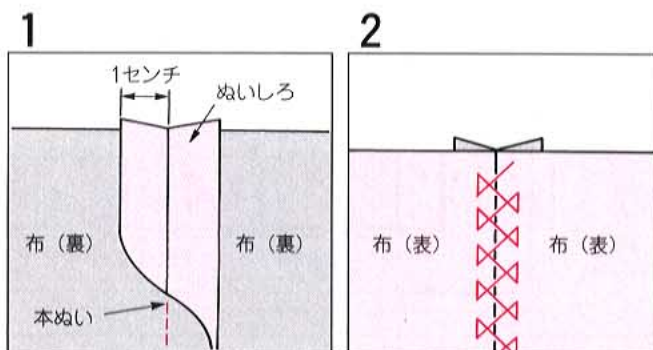
模様ぬいを使っているいろいろな布をはぎ合わせます。残り布などを活用し、小物類や室内装飾に応用します。

●重ねはぎ



2枚の布地を中表に合わせ、本ぬいした後、ぬいしろを片返しにします。両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。

●割りはぎ



2枚の布地を中表に合わせ、本ぬいした後、ぬいしろをきれいに割ります。つき合わせになっている表布から両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。

スカラップ 貝がらぬい



テーブルクロスやブラウスの衿など、ふち飾りに使います。

選ぶ模様

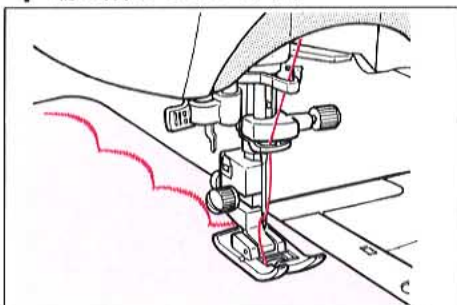
ワンポイント
の

使う押え

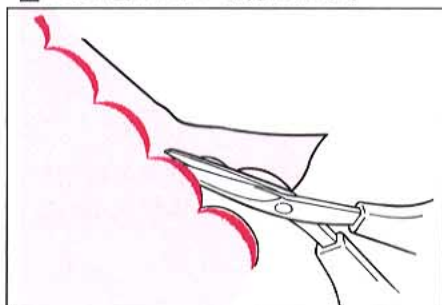
模様押え (T)

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 布端に模様がかからないように端を残してぬいます。



2 糸を切らないようにぬい目にそって切ります。



連続もようぬい

使う模様

連続

ワンポイント

ひらがな


アルファベット

数字

調整模様

を押してお好みの模様を選びます。

使う押え

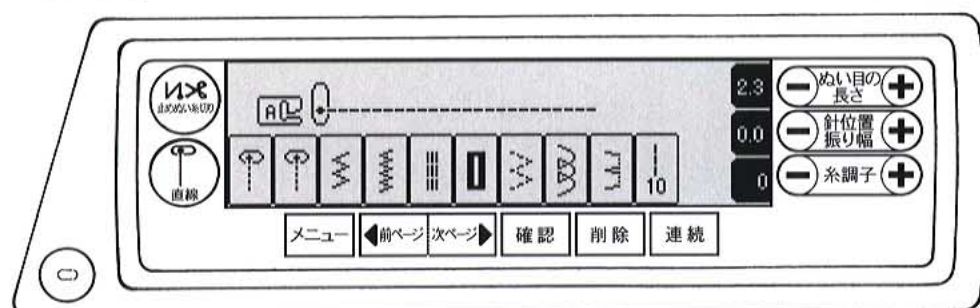


模様押え (T)

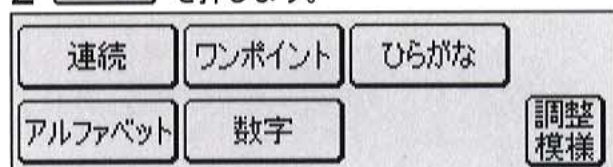
注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

画面の模様の出し方

1 **メニュー** を押します。



2 **連続** を押します。





3 連続模様画面 (1画面) が表示されます。



お好みの模様を押します。

操作キーのはたらき

操作キー	はたらき
	自動で糸切り、止めぬいをします。 画面右の方に 止めぬい糸切り と表示されます。
	実用ぬい画面に戻るキーです。 (左基線の直線が選択されます。)

もようぬい

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

使う模様

連続

ワンポイント

ひらがな

アルファベット

数字

調整
模様

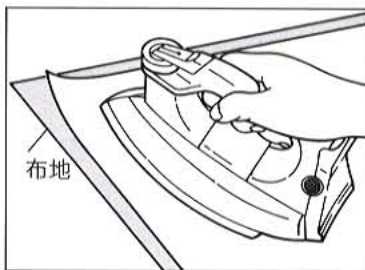
を押してお好みの模様を選びます。

使う押え



模様押え (T)

ぬう前の準備

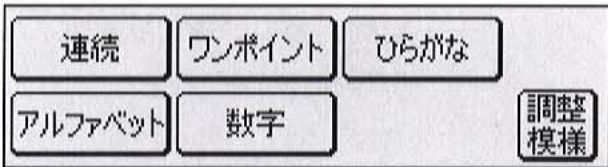


きれいに模様をぬうためには、芯地をはり、ためしぬいをしましょう。

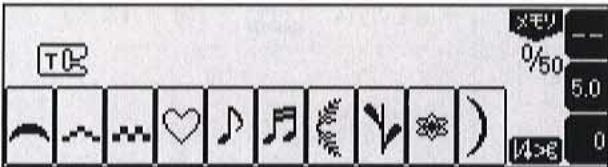
裏面に接着芯地（不織布）をアイロンで接着させます。（アイロン温度は高温～中温です）
※不織布の接着芯地は仮接着タイプを使います。

画面の模様の出し方

1 **ワンポイント** を押します。



ワンポイント模様画面（1画面）が表示されます。

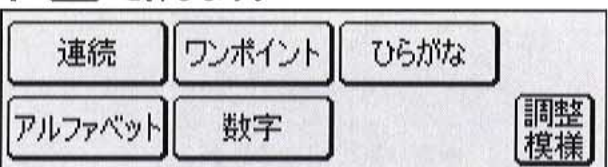


お好みの模様を押します。

ためしぬい ●模様をぬうときは必ずためしぬいをします。

布の種類や厚さ、接着芯地（不織布）などの種類により模様が変形することがありますので、必ず同じ布でためしぬいをしてください。

1 **調整模様** を押します。



2

正しい模様

↓ぬい方向

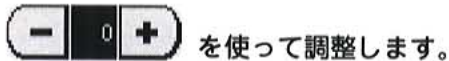
前後送り調整

左右送り調整

戻る

3 ミシンをスタートさせます。

4 ためしぬいの模様の形によって



ぬい始めとぬい終りが、同じ位置になるように調整します。

正しい形	↑の方向にちぢめるには	を押して調整します。
	↓の方向にのばすには	を押して調整します。
	←の方向に近づけるには	を押して調整します。
	→の方向に近づけるには	を押して調整します。

5 調整が終わりましたら **戻る** を押します。

もようぬい

カーソル

確認 を押すと表示されます。この線のすぐ右にある模様、削除できる模様となります。模様と模様の間に新たに模様を追加するときは、**確認** を押して、追加したい位置に移動させてから、模様を選びます。

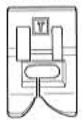
メモリ表示

模様を選ぶと自動的にメモリされます。メモリされた数だけ数字が増えます。(最大50コまで)

画面

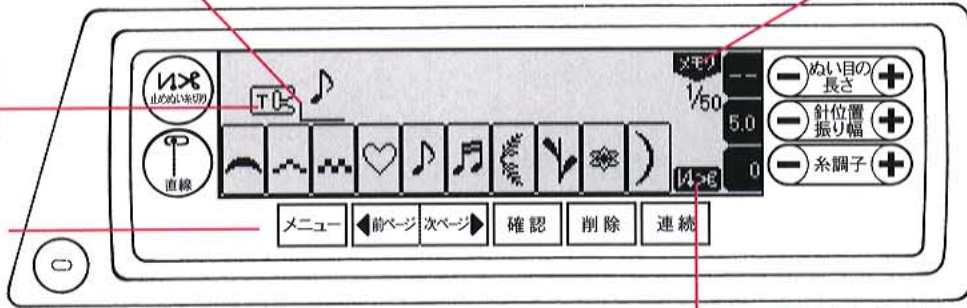
画面上の模様を指で押しますと、画面の上の方に模様が表示されます。表示された模様をぬうことができます。

使う押え



模様押え (T)

操作キー



自動止めぬい糸切り表示



を押すと、表示されます。

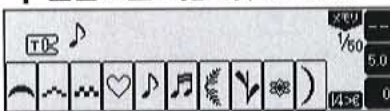
操作キーのはたらき

操作キー	はたらき
メニュー	メニュー画面が表示されます。
前ページ 次ページ	次の画面（次の画面がある場合のみ）を見たいときは次ページキーを押します。前の画面に戻りたいときは前ページキーを押します。
確認	多くの模様を記憶したときの確認ができます。
削除	記憶した模様を一度押すごとに後ろから順に消えていきます。3秒以上押すとオールクリア（すべてが消える）になります。

操作キー	はたらき
連続	1つ、または組み合わせた模様を何個も連続してぬうことができます。画面右の方に 連続 と表示されます。 例)  ※最後の模様をきちんとぬい終わらせたい場合は、最後の模様をぬい始めたら再度 連続 を押すとその模様をぬい終って止まります。
自動止めぬい糸切り	自動で糸切り、止めぬいをします。画面右の方に 自動止めぬい糸切り と表示されます。
直線	実用ぬい画面に戻るボタンです。（左基線の直線が選択されます。）

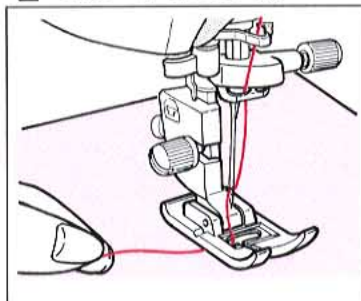
ぬう模様を選ぶには

1 お好みの模様を選び、画面の上を指で押します。



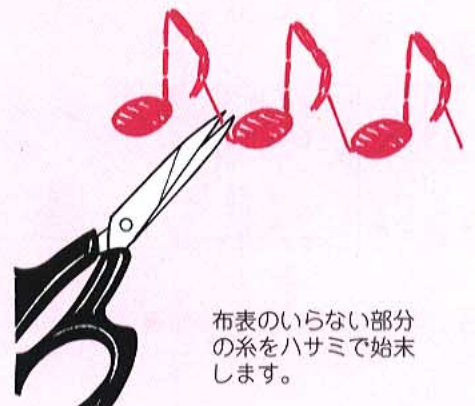
*文字ぬい模様と組み合わせることができます。(最大50個まで)

2 布地を入れてスタートさせます。



ぬい上がると自動的に止まります。

● 渡り糸の始末のしかた



布表のいらぬ部分の糸をハサミで始末します。

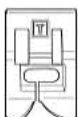
文字ぬい

使う模様



のいずれかを押し
て好みの文字を選びます。

使う押え



模様押え (T)

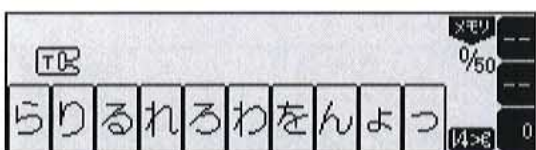
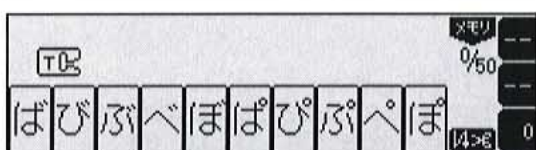
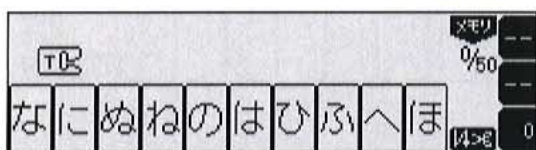
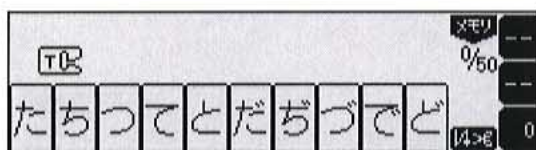
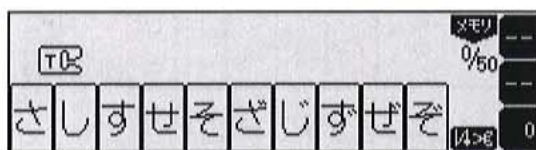
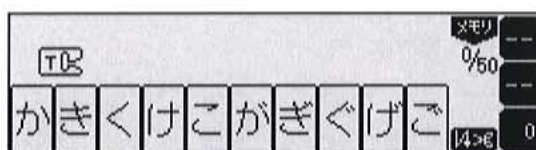
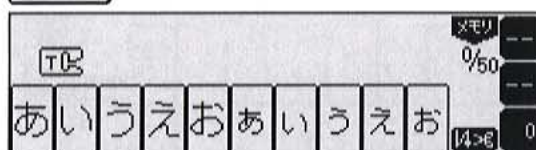
注意 押えの交換のときは電源
スイッチを切ってください。

* ◀前ページ▶次ページ▶を押して画面を変えます。

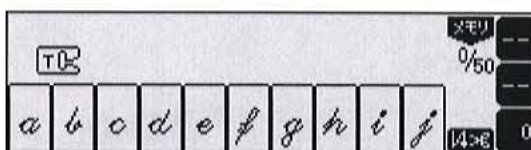
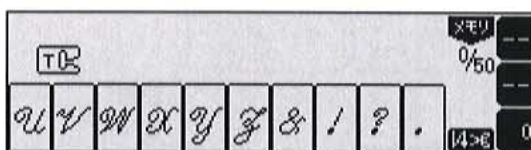
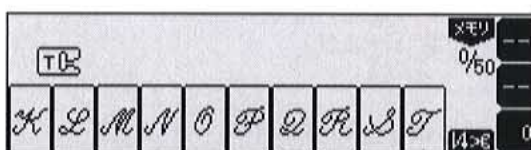
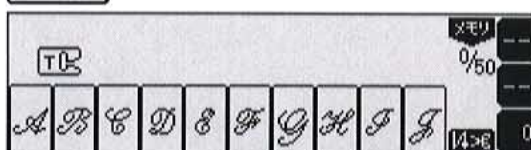
* お好みの文字のボタンを押します。
ワンポイント模様と組み合わせることもできます。
(最大50個まで)

画面の模様の出し方

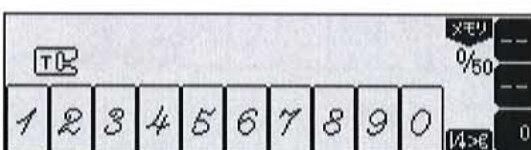
ひらがな ひらがな画面 (9画面)



アルファベット アルファベット画面 (6画面)



数字 数字画面 (2画面)



模様と文字を組み合わせるには...

使う模様

連続	ワンポイント	ひらがな
アルファベット	数字	調整模様

のいずれかを押し
お好みの模様や文字を選びます。

使う押え

模様押え (T)

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

例)

♪ひかる月

1 全体のレイアウト（配置）を決め、チャコペンで印をつけます。

2 **ワンポイント** を押します。

連続	ワンポイント	ひらがな
アルファベット	数字	調整模様

3 **♪** を押します。

TR	♪	メモリ 1/50	5.0	0					
◡	◢	◣	♥	♪	🎵	🌿	↓	✿)

4 **メニュー** を押します。

5 **ひらがな** を押します。

連続	ワンポイント	ひらがな
アルファベット	数字	調整模様

6

TR	♪	メモリ 1/50	5.0	0					
あ	い	う	え	お	あ	い	う	え	お

次ページ を押していきます。

7 **ひ** を押します。

TR	♪	ひ	メモリ 2/50	0					
な	に	ぬ	ね	の	は	ひ	ふ	へ	ほ

前ページ を押していきます。

8 **か** を押します。

TR	♪	ひ	か	メモリ 3/50	0				
か	き	く	け	こ	が	ぎ	ぐ	げ	ご

次ページ を押していきます。

9 **る** を押します。

TR	♪	ひ	か	る	メモリ 4/50	0			
ら	り	る	れ	ろ	わ	を	ん	よ	っ

10 **メニュー** を押します。

11 **ワンポイント** を押します。

連続	ワンポイント	ひらがな
アルファベット	数字	調整模様

12 **🎵** を押します。

TR	♪	ひ	か	る	🎵	メモリ 5/50	5.0	0	
◡	◢	◣	♥	♪	🎵	🌿	↓	✿)

13 スタートさせます。

しんせつメッセージ

間違った操作をした時などメッセージが表示されますので、メッセージにしたがって操作してください。

1

ピッと音がなるまで
プーリーをゆっくり回してください。

・そのままの針の位置では糸通し、糸巻きができないとき。

2

押えがあがっています。

・押えをあげたまま、自動糸通しボタン、スタート・ストップボタン、返しぬいボタン、糸切りボタンを押したとき。
・ぬい途中に押えをあげたとき。

3

糸かけ中です。
絶対に「プーリー」を回したり、
「押え」をあげたりしないでください。

・自動上糸かけをしているとき。

4

上糸を確認してください。

・自動上糸かけが失敗したとき。
・ぬい中に上糸がなくなったとき。
・上糸が正しくかかっていないとき。

5

選択もようを消去しますか？
消去は「削除」、中止は「確認」を
押してください。

<模様モード時>
・もようが選択されているとき、実用モードに変えた場合。
・もようが選択されているとき、削除ボタンを2秒以上押した場合。

6

下糸を確認してください。

・ポピンに下糸がない状態でスタート・ストップボタンを押したとき。
・ぬい中に下糸がなくなったとき。

7

ボタン穴かがりレバーを
さげてください。

・ボタン穴かがりレバーをさげずに、ボタン穴かがりをぬおうとしたとき。

8

もようを選んでください。

<模様モード時>
・もようを選ばずに、スタート・ストップボタンを押したとき。

9

この操作はできません。

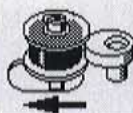
・そのキーを押しても、機能がはたらかないとき。

10

これ以上メモリできません。

<模様モード時>
・50個以上のもようを選択したとき。

11



下糸巻き状態です。
巻く前に⑥の押えは外してください。
押えをあげて巻いてください。
巻き終わったら左に戻してください。

・下糸巻き中のとき。
・下糸巻き軸が右側にあるとき。

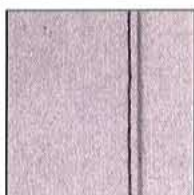
別売品

三つ巻き押え

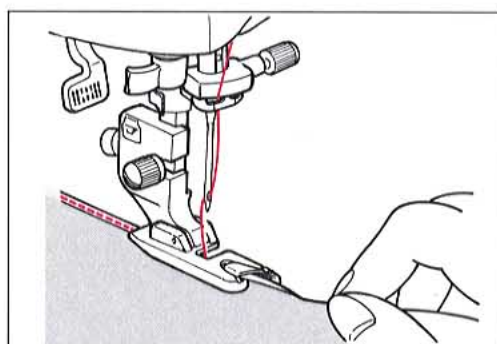
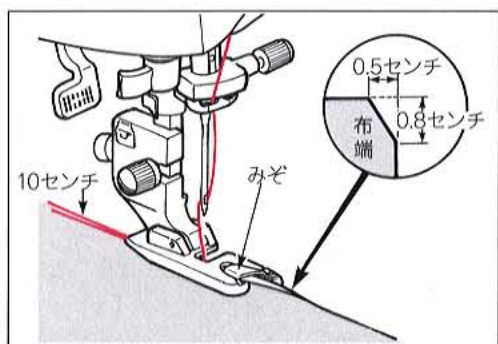
注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



使う模様



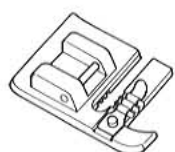
布端を三つ折りにしながらぬっていく方法で、シャツやブラウスの裾、フリルやハンカチの縁の始末などに使います。



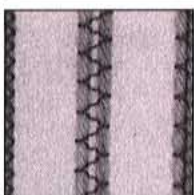
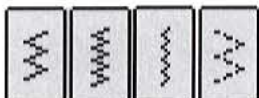
布地を巻き込みやすくするために角を少し切ります。押えのうず状のみぞの中に、布地を針がとどくところまで入れてから、針をおろして押えをさげます。上下の糸端を左手で引き、手ではずみ車を3~4回まわします。正しく巻き込まれたら、右手の親指と人さし指で布地をつまみ、常に適量がくり入れられるようにしてぬっていきます。

ひもつけ押え

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



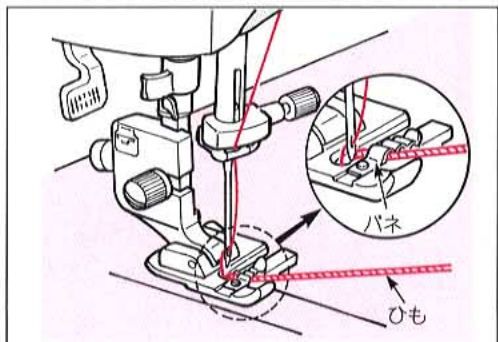
使う模様



毛糸、手ぬい刺しゅう糸、穴糸などのひもを使い、子供服やエプロン、インテリア小物に応用します。1本から3本のひもつけができます。

1本つけ

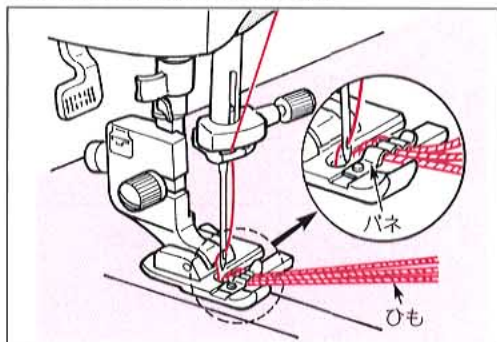
1本の場合は左端にひもを通し、ひもの先端を押えの裏にあるみぞにはめてから押えをさげます。



振り幅(2)のジグザグ模様で、ぬい止めます。ぬい始めとぬい終わりに、返しぬいボタンを押して止めぬいをします。ひもは布地の裏に引き出して結び、切ります。

3本つけ

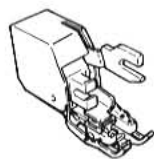
3本の場合は全部にひもを通します。ひもの先端は1本の場合と同じように、押えの裏にあるみぞにはめてから押えをさげます。



三点ジグザグ模様でぬい止めます。1本の場合と同じように止めぬいをして、ひもを布地の裏に出して結び、切ります。
※2本つけの場合はひもを押えの両端にセットします。

布ずれ防止に……
上送リアタッチメント

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



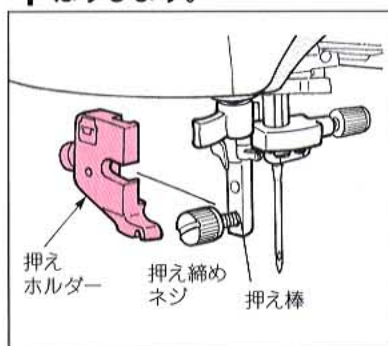
直線ぬい（たて送り）
だけにお使いください。
※横送り直線・ジグザグ・
模様ぬいには使わないでください。

使う模様



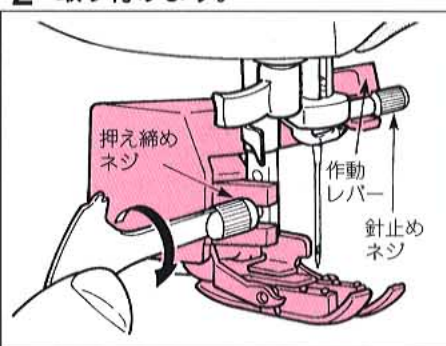
一般にミシンで送りにくい素材
（ニット、ジャージー、ピニールクロス、
人工皮革、皮など）に使用します。
滑らかな送りで布ズレを防ぎ、
きれいなぬい上りになります。

1 押えホルダーを
はずします。



押え棒をあげて、押え締めネジをゆるめ、
押えホルダーをはずします。

2 上送リアタッチメントを
取り付けます。



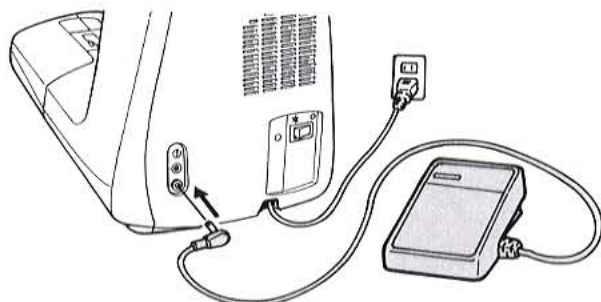
作動レバーの二また部分を針止めに入れ、
とりつけ部を押え棒にはめこみ、押え締め
ネジをしっかりしめます。

※ぬい速度はゆっくりから中ぐらいでぬいます。

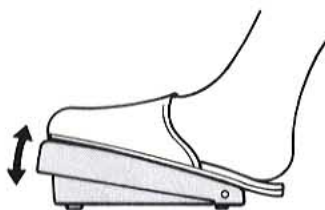
コントローラーを使いますと、
足の操作で、スタート・ストップから
スピードコントロールまでできます。

注意 ミシンにセットしてあるコントローラー
の上に物をのせないでください。

※コントローラーを使うときは、
スタート・ストップボタンはストップのみ有効です。



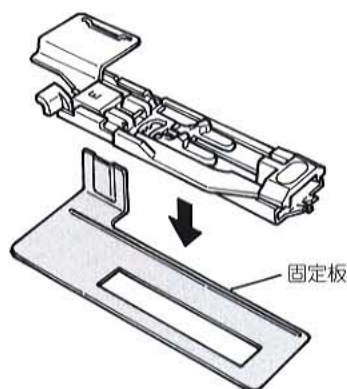
コントローラーのプラグを
ミシンのコンセントに差し込みます。



コントローラーを踏みますと、ミシンがスタートし、
速度も調節できます。
足をはなしますと、ミシンは止まります。
針は布に入ったまま止まります。

返しぬいをするときは、返しぬいスイッチを押します。

薄地や段部近辺のぬいにくいボタン
穴かがりには、
固定板をセットするとスムーズにぬ
うことができます。

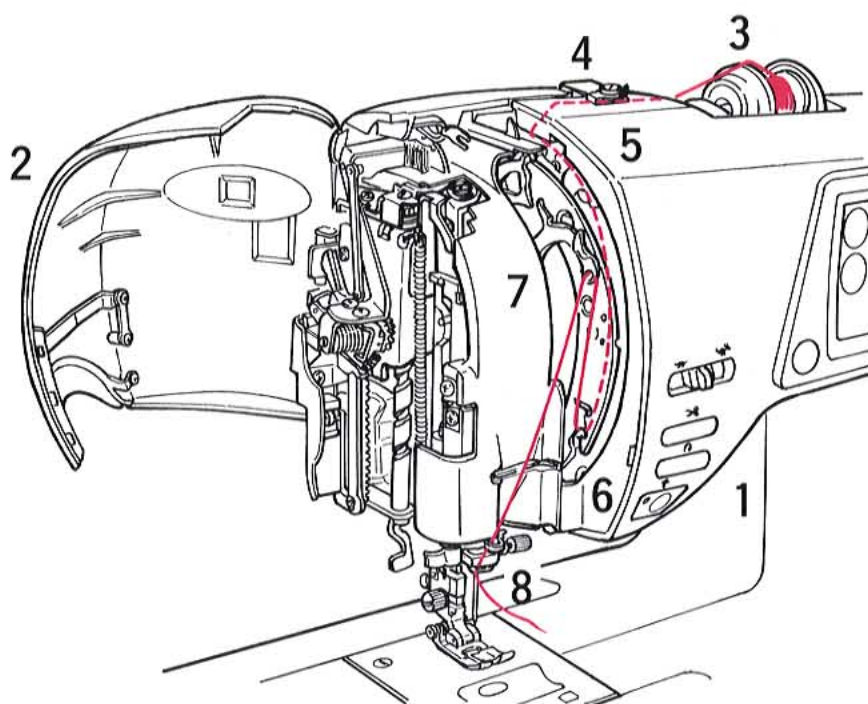


1. ボタン穴かがり押えに固定板をセット
したまま、押えを
取り付けます。

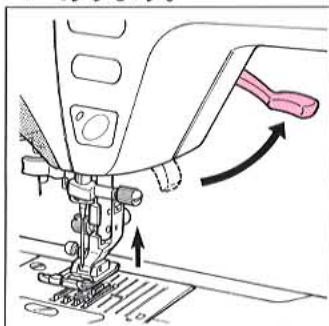
2. 押えと固定板の
間に布地を入れて
ぬいます。

※糸調子を強くします。

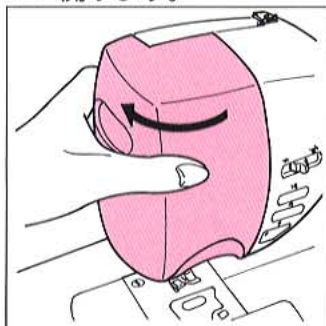
手動上糸かけ



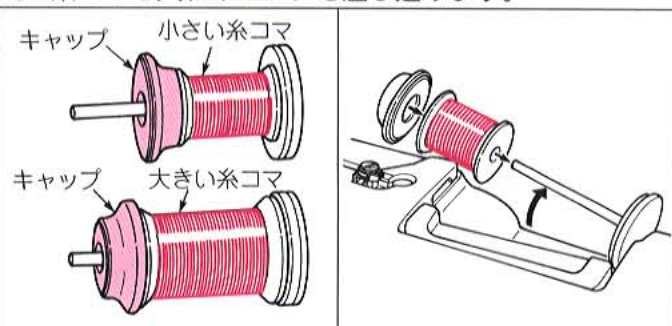
1 押え上げレバーを
あげます。



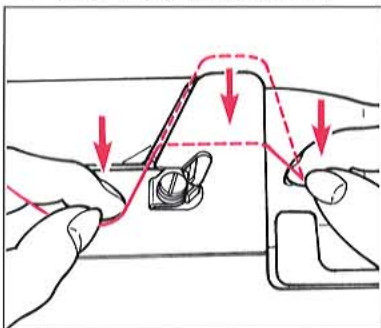
2 面部カバーを
開けます。



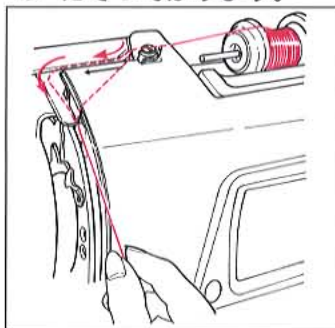
3 糸ゴマを入れキャップを差し込みます。



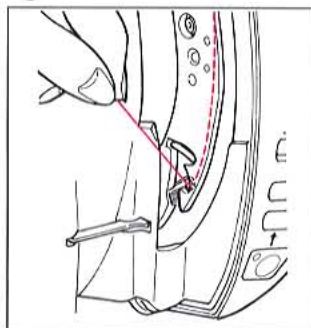
4 両手で手前に引きます。



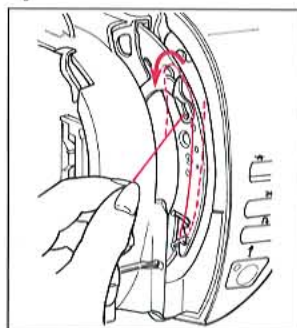
5 糸の先端をもち、矢印
にそってかけます。



6

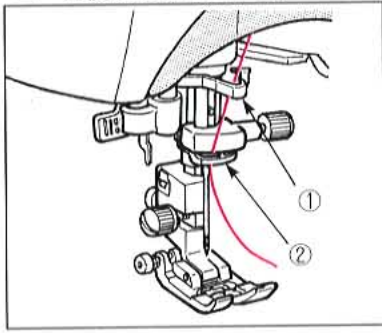


7



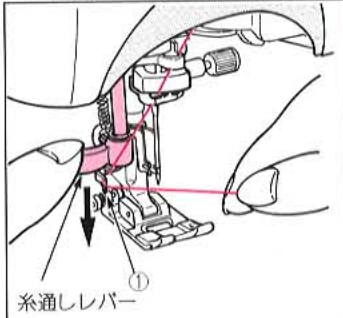
パチッという音を確認してください。

①と②には、
8 右側からかけます。



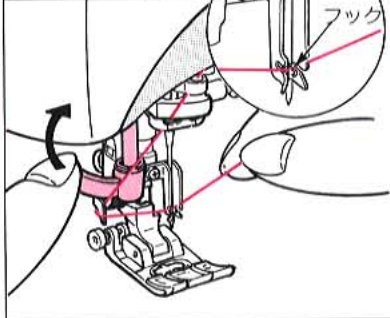
針自動糸通し

1 押えをさげ、糸通しレバーをさげます。



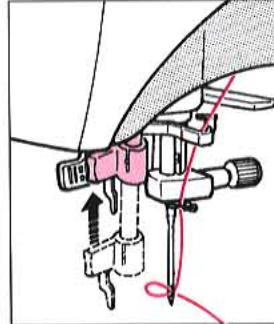
針を上にあげてから糸通しレバーをさげて①に糸をかけます。

2 フックにかけます。



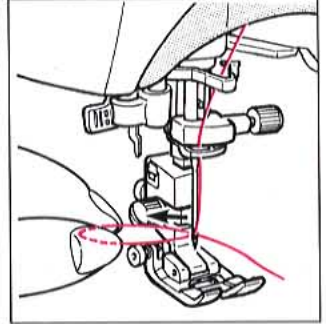
糸通しレバーを回してフックに糸をかけます。

3 糸通しレバーをあげます。



指をはなすとフックが糸をひっかけて針穴に通します。

4 糸を引き出します。



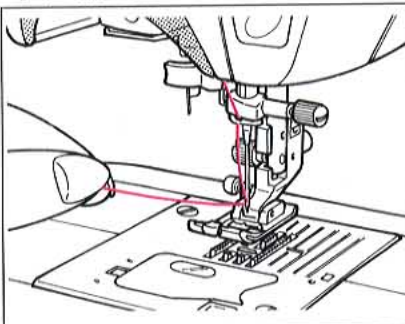
通した糸を針穴から10センチ位引き出します。

ご注意

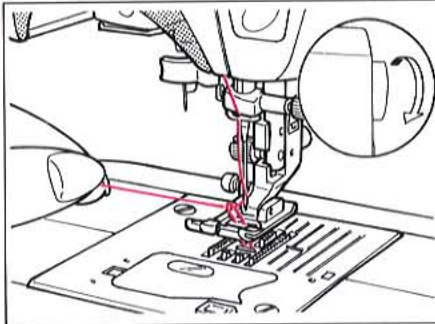
1. ミシンが動いているときは糸通しレバーをさげないでください。
2. 針自動糸通しは11番、14番、16番の針に使用できます。

下糸の引きあげ方

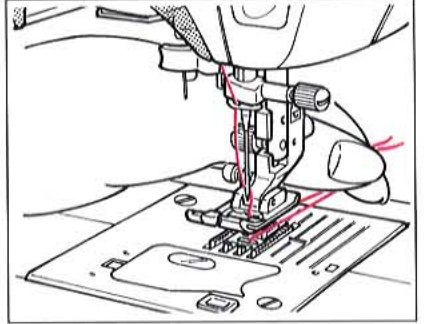
1 押えをあげ、
上糸を軽くもちます。



2 はずみ車を手前に回します。





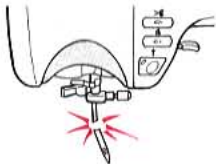

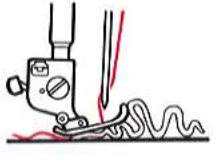


3 上・下糸をそろえて10センチ以上後ろへ出します。


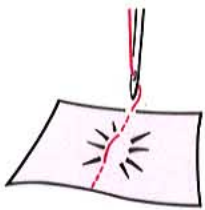
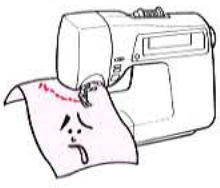
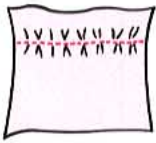


針が上下して下糸を引き出します。

故障かな………というときは

下記のことをお調べのうえ、それでも具合の悪い場合は、お買い求め販売店にご相談ください。

症 状	原因 (理由)	処置方法	参 考 頁
 <ul style="list-style-type: none"> ●ぬっているとき急に回転しなくなった。 ※はずみ車が手で普通に回せるとき。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ゆっくりぬいを長時間行ったとき。 ※モーターの異常発熱を防ぐため、自動的にモーター電源が切れるしくみになっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●電源スイッチを切り、しばらく(約20分間)すると安全装置が復帰し、正常に戻ります。 	—
 <ul style="list-style-type: none"> ●スタートさせてもミシンが動かない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●上糸がなくなっている。 ●糸巻軸が右よりになっている。 ●ボタン穴かがりのとき、レバーがさがっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●上糸をかけたうえでスタートボタンを押します。 ●糸巻軸を左いっぱいまで戻します。 ●ボタン穴かがりレバーをさげます。 	9 7, 8 25
<ul style="list-style-type: none"> ●スタート・ストップボタンを押してもミシンが回らない。(ランプはつく) 	<ul style="list-style-type: none"> ●押えのつけまちがえにより、針が押えに当たっている。 ●針が外れてかまの中に落したままスタートさせたとき。 	<ul style="list-style-type: none"> ●模様合った押えにとりかえます。 ●針を取り除きます。 	13 —
 <ul style="list-style-type: none"> ●針が折れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●細い針で厚物をぬったとき。 ●針が奥まできちんとはいっていないとき。 ●針止めネジのしめ方が弱いとき。 ●模様に対して押えがまちがっているとき。 	<ul style="list-style-type: none"> ●布地、ミシン糸、ミシン針の関係を調べます。 ●針の取り付け方を調べます。 ●針止めネジをしっかりしめます。 ●模様と押えの関係を調べます。 	17 17 17 13
 <ul style="list-style-type: none"> ●回転音が重い、または、音が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●送り歯にゴミがたまっているとき。 ●かまに糸ズがたまっているとき。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ミシンの手入れをします。 ●ミシンのそうじをします。 	49 49
 <ul style="list-style-type: none"> ●布を送らないとき。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ぬい目の長さが0になっている。 ●タオル地などやわらかい布地。 ●ドロップフィードつまみが右になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●模様を選びなおすと模様の適正なぬい目の長さがセットされます。 ●ぬい目の長さを3~5にします。 ●つまみを左にします。 	14 — 3
 <ul style="list-style-type: none"> ●糸通しができない。 ※糸通しのフックが回転しない。 ●糸通しのフックが針穴に入らない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●針が上にあがっていないとき。 ※針があがっていないときは、フックの保護のため回転しないしくみになっています。 ●針が奥まできちんと入っていないとき。 	<ul style="list-style-type: none"> ●はずみ車を回して、針を上にあげます。 ●針のとりつけ方を調べます。 	9, 45 17
 <ul style="list-style-type: none"> ●糸通しレバーが戻らず、ミシンが回らなくなった。 ※針穴の中に糸通しのフックが入ったまま。 	<ul style="list-style-type: none"> ●糸通しレバーをさげたまま(糸通し中)誤ってミシンを回してしまったとき。 	<ul style="list-style-type: none"> ●はずみ車を手でわずかに向こう側(ぬうときと反対)に回します。 	—

症 状	原因 (理由)	処置方法	参 考
 <ul style="list-style-type: none"> ●スタート・ストップボタンを押してもミシンがスタートしない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●足踏みのコントローラー (別売) が差し込んであるとき。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コントローラーをはずせばスタート・ストップボタンを使用できます。 	44
 <ul style="list-style-type: none"> ●糸が切れる。 ●ぬい目が飛ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●糸のかけ方がまちがっているとき。 ●糸にこぶや結び目があるとき。 ●手動糸調子の合わせ方が悪いとき。 ●針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。 ●針のとりつけ方がまちがっているとき。 ●下糸の通し方がまちがっているとき。 ●ボビンが内がまの中で滑らかに回らないとき。 ●針と糸の太さが合っていないとき。 ●天びんに糸がかかっているとき。 	<ul style="list-style-type: none"> ●糸をかける順序を調べてかけ直します。 ●糸こぶや結び目をとりのぞきます。 ●模様、ミシン糸の関係を調べて合わせます。 ●針をとりかえます。 ●針を正しくとりつけます。 ●下糸の通し方を調べます。 ●下糸の巻き方を調べます。 ●ミシン糸、針の関係をよく調べます。 ●糸のかけ方を調べます。 	45, 46 — 16 17 17 8 — 17 9, 45
 <ul style="list-style-type: none"> ●ぬい調子が合わない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●糸のかけ方がまちがっているとき。 ●下糸の通し方がまちがっているとき。 ●糸ゴマキャップの向きが糸ゴマに合っていないとき。 	<ul style="list-style-type: none"> ●糸のかけ方を調べます。 ●下糸の通し方を調べます。 ●糸ゴマに合ったキャップの向きでとりつけます。 	9, 45 8 9
 <ul style="list-style-type: none"> ●ぬい目にしわができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●薄物に対してぬい目が大きいとき。 ●針先がつぶれているとき。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ぬい目を小さく (みじかく) します。 ●針をとりかえます。 	14 17

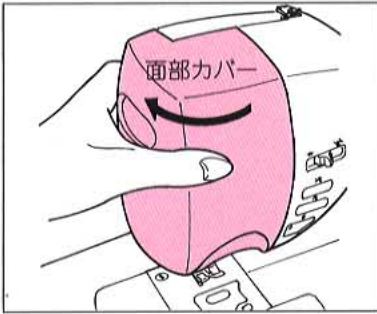
■仕様表

項 目	仕 様
本体寸法	幅47.9×高さ32.4×奥行21.5 (cm)
ケースセット時寸法	幅50.5×高さ33.5×奥行22.0 (cm)
重量	11.9kg (ケースセット時13.0kg)
定格電圧/消費電力	100V / 65W 50/60Hz
ランプ消費電力	13.5V / 3W

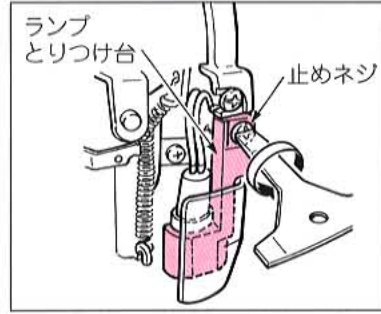
ランプの交換

- 注意**
- ランプの交換のときは電源スイッチを切り、室内コンセントからプラグを抜いてください。
 - ランプは冷えてから交換してください。

1 面部カバーを開けます。

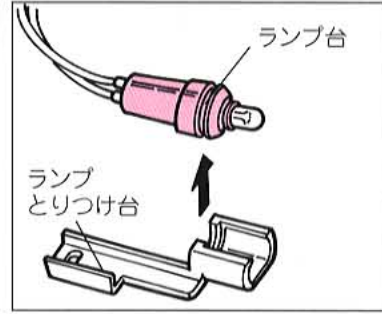


2 ランプとりつけ台をはずします。



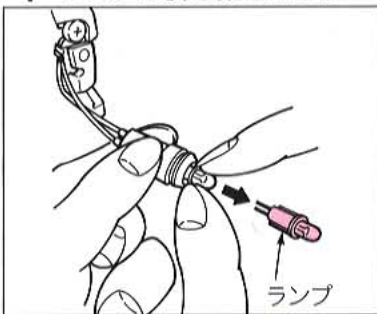
止めネジをゆるめてランプとりつけ台をはずします。

3 ランプとりつけ台からランプ台を取ります。



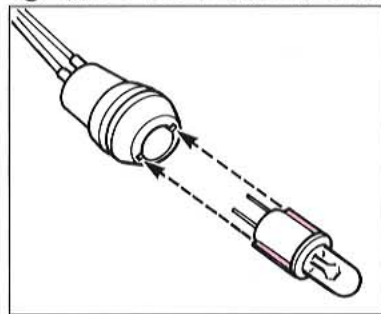
※ランプ台を取り付けるときは、ランプ台のみぞを、とりつけ台のみぞに合わせます。

4 ランプを引き抜きます。



ねじらないで、引き抜きます。

5 新しいランプを差し込みます。



新しいランプは細いミソに沿って差し込みます。

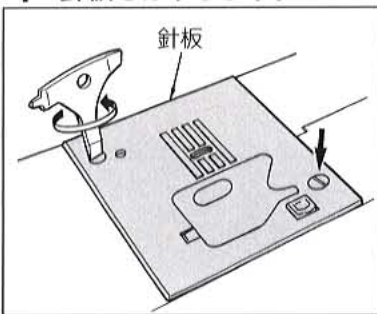
- ※ランプ消費電力3W (13.5V)
- ※ランプは当社サービスセンターまたはお買い上げ店でお求めください。

ミシンの手入れ

- 注意** ミシンのお手入れをするときは電源スイッチを切り、室内コンセントからプラグを抜いてください。

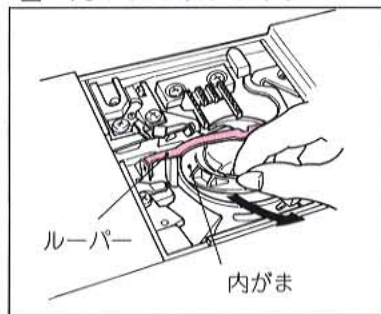
糸くずやほこりがたまりますと、故障の原因や、下糸の残り量が正しく表示されないことがあります。常にきれいにしておきましょう。

1 針板をはずします。



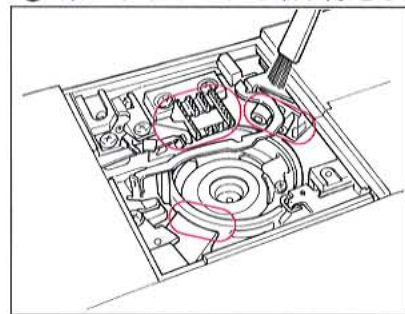
針や押えをはずして、付属品の専用ドライバーで針板をはずします。

2 内がまを取ります。



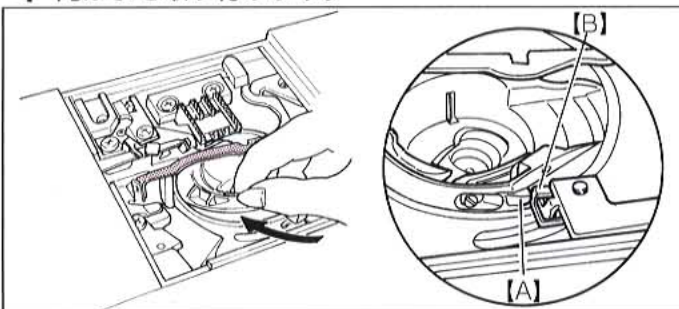
プーリーを回してルーパーを上へ上げ、内がまを取ります。

3 糸くずやほこりを取り除きます。



送り歯や、内がまの周辺の糸くずやほこりを、付属品の掃除用ブラシを使ってきれいにします。

4 内がまを取り付けます。

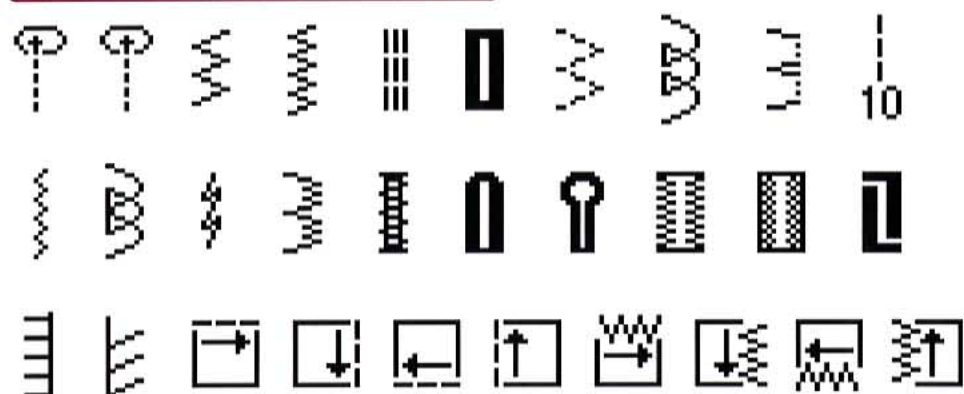


プーリーを回してルーパーを上へあげ、【A】と【B】があたるように内がまを入れます。

針板を取り付けます。

模様一覧表

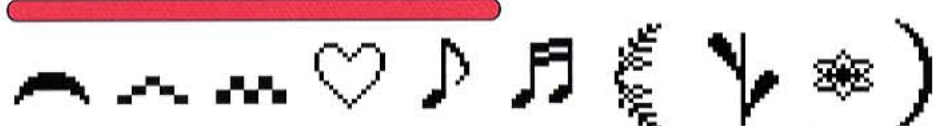
実用ぬい



連続ぬい



もよう



文字ぬい

あいうえお あいうえお
 かきくけこ がぎぐげご
 さしすせそ ざじずぜぞ
 たちつてと だぢづでど
 なにぬねの はひふへほ
 ばびぶべぼ ぴぷぺぽ
 まみむめも やゆよやゆ
 らりるれろ わをんよっ
 ー。、「」〈〉’，～

A B C D E F G H I J
 K L M N O P Q R S T
 U V W X Y Z & ! ? .
 a b c d e f g h i j
 k l m n o p q r s t
 u v w x y z - · / □
 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0
 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

■アフターサービスと保証

- このマシンには保証書がついています。
- 保証書は、当社直営店で所定事項を記入してお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。
- 保証期間中は、お買い上げの日から1年間です。ただし、マイコン基板は2年間です。
- 保証期間中でも有料になることがありますので、ご了承ください。(保証書に詳細を記載してありますので、そちらをご覧ください。)
- 保証期間経過後の修理につきましては、当社直営店にご相談ください。当社は、このマシンの補修用性能部品を、製造打ち切り時点から最低8年間保有しています。
- 修理サービスについてご不明な点がございましたら、当社サービスセンター、または当社お客様相談室へお問い合わせください。

JUKI

アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、下記のお客様相談室へお問い合わせください。

北日本お客様相談室…〒980-0012	仙台市青葉区錦町1-1-2
東京お客様相談室…〒183-0055	東京都府中市府中町1-6-11三和第三ビル4F
大阪お客様相談室…〒530-0002	大阪市北区曽根崎新地2-6-21 Ⅱ3F
中・四国お客様相談室…〒732-0802	広島市南区大州町1-9-42
九州お客様相談室…〒812-0013	福岡市博多区博多駅東1-9-5

本社お客様相談室 …〒183-0055 東京都府中市府中町1-6-11三和第三ビル5F

Copyright © 2003 JUKI CORPORATION
本書の内容を無断で転載、複写することを禁止します。

JUKI株式会社

〒182-8655 東京都調布市国領町8-2-1

☎ 03-3480-5653

フリーダイヤル
☎ 0120-05-1233

☎ 0120-29-2111